



茨城県

# 茨城県景気ウォッチャー調査

(令和5年6月調査分)

## 《景気の現状判断DI》

	令和5年3月	令和5年6月	前回調査との差
茨城県	53.5	<b>57.5</b>	(+4.0)
県北地域	44.6	<b>58.2</b>	(+13.6)
県央地域	59.4	<b>61.2</b>	(+1.8)
鹿行地域	51.4	<b>55.6</b>	(+4.2)
県南地域	51.4	<b>55.1</b>	(+3.7)
県西地域	59.3	<b>57.1</b>	(△2.2)

※かっこ内は参考値（調査客体人数変更のため）

## 《景気の先行き判断DI》

	令和5年3月	令和5年6月	前回調査との差
茨城県	55.8	<b>53.5</b>	(△2.3)
県北地域	53.9	<b>56.1</b>	(+2.2)
県央地域	60.7	<b>56.1</b>	(△4.6)
鹿行地域	53.7	<b>51.7</b>	(△2.0)
県南地域	56.6	<b>51.0</b>	(△5.6)
県西地域	53.8	<b>52.6</b>	(△1.2)

※かっこ内は参考値（調査客体人数変更のため）

令和5年(2023年)7月25日公表

茨城県政策企画部統計課

## 目 次

I	調査の概要	1
II	調査結果の概要	3
1	全県の動向	3
	(1) 景気の現状判断DI	3
	(2) 景気の先行き判断DI	4
2	地域別の動向	5
	(1) 景気の現状判断DI	5
	(2) 景気の先行き判断DI	8
III	景気の判断コメント	11
1	景気の現状判断コメント	11
2	景気の先行き判断コメント	21
3	その他の意見	31

問合せ先  
茨城県統計課商工農林グループ TEL:029-301-2656  
公式サイトのURL  
[https://www.pref.ibaraki.jp/kikaku/tokei/fukyu/tokei/  
betsu/bukka/watch/index.html](https://www.pref.ibaraki.jp/kikaku/tokei/fukyu/tokei/betsu/bukka/watch/index.html)

# I 調査の概要

## 1 調査の目的

県内の事業所等において経済の第一線で働いている人々から、景気の現状や景気の先行き判断に関する生の情報を地域ごとに把握するとともに迅速に公表することで、県や市町村のきめ細かな施策立案や経済界におけるタイムリーな景気動向判断等の基礎資料とする。

## 2 調査の範囲

### (1) 対象地域

県下全域を対象とする。また、全域を県北、県央、鹿行、県南及び県西の5地域に区分する。なお、各地域に含まれる市町村は以下のとおりである。

地域	市 町 村
県北地域	日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、常陸大宮市、大子町
県央地域	水戸市、笠間市、ひたちなか市、那珂市、小美玉市、茨城町、大洗町、城里町、東海村
鹿行地域	鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、鉾田市
県南地域	土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、美浦村、阿見町、河内町、利根町
県西地域	古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、八千代町、五霞町、境町

### (2) 調査客体

家計動向、企業動向及び雇用動向を敏感に反映する業種に従事する者から、(1)で示した地域ごとに50名、計250名を調査客体とする。

業 種 名	具 体 例	県北 地域	県央 地域	鹿行 地域	県南 地域	県西 地域	合計
家計関連	小売業、飲食業、サービス業、住宅関連等	30	30	30	30	30	150
企業関連	農林水産業、製造業、建設業、金融業等	16	16	16	16	16	80
雇用関連	人材派遣業、公共職業安定所、求人広告業等	4	4	4	4	4	20
	計	50	50	50	50	50	250

※今回調査から、調査客体数を変更した。【変更前】地域ごとに60名、計300名  
このため、本報告書内の前回調査とのポイント差は参考値となる。

## 3 有効回答率

地域	調査客体	回答数	回答率
全 県	250 人	241 人	96.4%
県北地域	50 人	49 人	98.0%
県央地域	50 人	49 人	98.0%
鹿行地域	50 人	45 人	90.0%
県南地域	50 人	49 人	98.0%
県西地域	50 人	49 人	98.0%

## 4 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断 (方向性)
- (2) (1) のコメント (理由)
- (3) 景気の先行きに対する判断 (方向性)
- (4) (3) のコメント (理由)
- (5) その他景気に関する意見 (自由回答)

## 5 調査月及び調査期間

調査月は6月、9月、12月及び3月の年4回である。令和5年6月調査の調査期間は、令和5年6月5日から20日までである。

## 6 利用上の注意

- (1) DI (Diffusion Index) は景気の方性 (景気が上向きか下向きか) をみるものであり、景気の水準を判断するものではない。
- (2) ウォッチャーの回答構成比は、小数第1位までの表示とし、表示単位未満の端数は四捨五入した。したがって、構成比の合計は100%とならない場合がある。

### ※DI(Diffusion Index)について

- 1 景気の現状及び景気の先行きに対する判断の回答区分は、以下のとおり5段階としているが、それぞれに点数化し、これらを各回答区分の構成比 (%) に乗じて、景気の方性をみるための指標 (DI) を算出している。

回答区分	良くなって いる	やや良 くなっている	変わらない	やや悪 くなっている	悪くなって いる
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

- 2 具体例  
回答者数100名で、回答内訳が以下の場合。

良くなって いる	やや良 くなっている	変わらない	やや悪 くなっている	悪くなって いる
15名	27名	25名	11名	22名

それぞれの回答構成比は、

良くなって いる	やや良 くなっている	変わらない	やや悪 くなっている	悪くなって いる
15.0%	27.0%	25.0%	11.0%	22.0%

したがって、DI値は、

$$(1 \text{点} \times 15.0\%) + (0.75 \text{点} \times 27.0\%) + (0.5 \text{点} \times 25.0\%) + (0.25 \text{点} \times 11.0\%) + (0 \text{点} \times 22.0\%) = 50.5 \text{となる。}$$

この値は、全員が「変わらない」と回答した場合は50 (=0.5点×100%) となることから、50を上回っているときは、景気は上昇局面にあり、50を下回っているときは、景気は下降局面にあるといえる。

## II 調査結果の概要

### 1 全県の動向

#### (1) 景気の現状判断DI

景気の現状判断DIは57.5となった。令和5年3月調査（以下「前回調査」という。）より4.0ポイント上昇し、横ばいを表す50を2期連続で上回った。

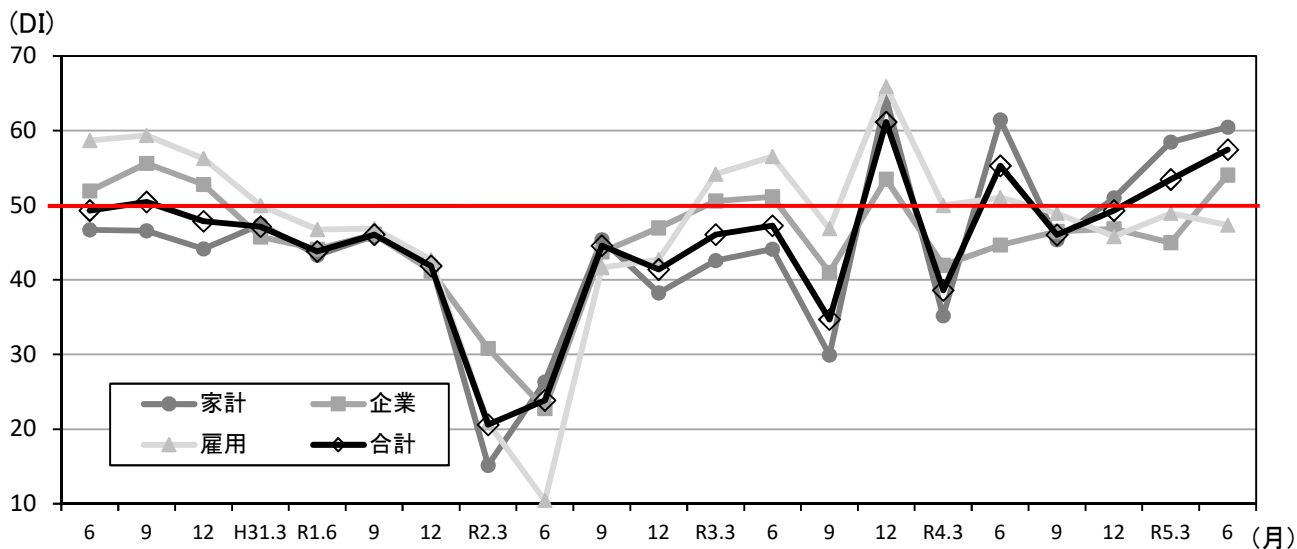
表1-1 景気の現状判断DI

分野	調査年月	令和4年 6月	令和4年 9月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月
合計		55.3	46.0	49.3	53.5	57.5
家計動向関連		61.5	45.4	51.0	58.5	60.5
小売関連		54.9	40.8	44.6	49.6	58.6
飲食関連		68.8	41.3	65.5	68.1	69.4
サービス関連		67.0	51.6	53.0	65.1	59.1
住宅関連		46.9	36.1	50.0	52.8	63.9
企業動向関連		44.7	46.5	46.8	45.0	54.1
農林水産業		34.4	37.5	40.6	28.1	46.9
製造業		43.1	46.3	48.4	46.0	55.9
非製造業		49.3	49.2	46.1	47.7	53.6
雇用関連		51.0	48.9	45.8	48.9	47.4

表1-2 回答構成比

	令和4年 6月	令和4年 9月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月
良くなっている	7.1%	3.2%	4.9%	8.1%	8.7%
やや良くなっている	35.7%	20.9%	24.9%	29.7%	37.8%
変わらない	33.2%	40.8%	39.3%	36.6%	32.0%
やや悪くなっている	19.4%	27.0%	24.2%	19.4%	17.8%
悪くなっている	4.6%	8.2%	6.7%	6.2%	3.7%

図1-1 景気の現状判断DIの推移



## (2)景気の先行き判断DI

3か月先の景気の先行き判断DIは53.5となった。前回調査より2.3ポイント低下したものの横ばいを表す50を2期連続で上回った。

表1-3 景気の先行き判断DI

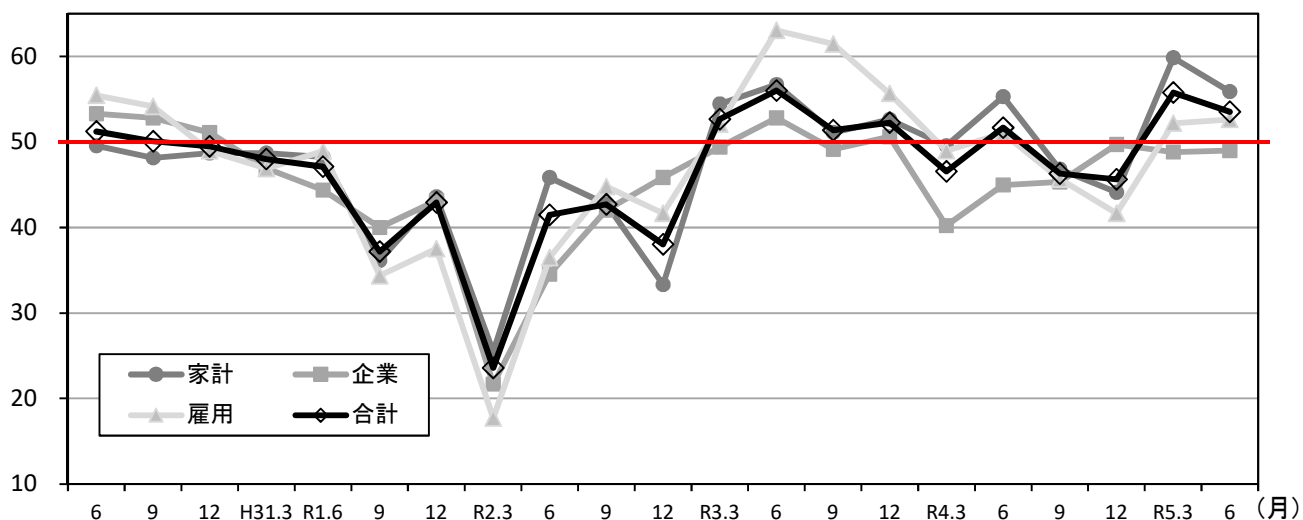
分野	調査年月	令和4年 6月	令和4年 9月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月
合計		51.7	46.3	45.6	55.8	53.5
家計動向関連		55.3	46.8	44.1	59.8	55.9
小売関連		47.0	40.4	41.4	54.9	53.0
飲食関連		71.3	52.5	47.6	66.7	65.3
サービス関連		61.0	51.3	45.9	63.7	56.3
住宅関連		31.3	44.4	41.7	52.8	52.8
企業動向関連		44.9	45.3	49.7	48.8	49.0
農林水産業		28.1	34.4	46.9	37.5	43.8
製造業		46.3	48.4	48.4	49.4	50.0
非製造業		47.1	43.5	52.3	50.8	49.1
雇用関連		51.0	45.7	41.7	52.2	52.6

表1-4 回答構成比

	令和4年 6月	令和4年 9月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月
良くなっている	5.3%	1.1%	1.8%	8.4%	5.0%
やや良くなっている	32.5%	23.0%	18.2%	32.6%	27.4%
変わらない	30.7%	43.6%	47.0%	38.1%	46.5%
やや悪くなっている	26.5%	24.5%	26.7%	15.4%	19.1%
悪くなっている	4.9%	7.8%	6.3%	5.5%	2.1%

図1-2 景気の先行き判断DIの推移

(DI)



## 2 地域別の動向

### (1)景気の現状判断DI

#### ① 県北地域

景気の現状判断DIは58.2となった。前回調査より13.6ポイント上昇して、横ばいを表す50を4期ぶりに上回った。

表2-1 景気の現状判断DI

調査年月	令和4年 6月	令和4年 9月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月
分野					
合計	<b>52.3</b>	<b>47.7</b>	<b>48.2</b>	<b>44.6</b>	<b>58.2</b>
家計動向関連	55.3	49.2	52.9	47.6	60.8
企業動向関連	48.5	47.1	44.4	37.5	55.0
雇用関連	43.8	37.5	25.0	50.0	50.0

表2-2 回答構成比

	令和4年 6月	令和4年 9月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月
良くなっている	1.9%	3.7%	1.8%	0.0%	8.2%
やや良くなっている	35.2%	20.4%	30.4%	21.6%	40.8%
変わらない	38.9%	44.4%	33.9%	45.1%	30.6%
やや悪くなっている	18.5%	25.9%	26.8%	23.5%	16.3%
悪くなっている	5.6%	5.6%	7.1%	9.8%	4.1%

#### ② 県央地域

景気の現状判断DIは61.2となった。前回調査より1.8ポイント上昇して、横ばいを表す50を3期連続で上回った。

表2-3 景気の現状判断DI

調査年月	令和4年 6月	令和4年 9月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月
分野					
合計	<b>56.8</b>	<b>44.6</b>	<b>55.2</b>	<b>59.4</b>	<b>61.2</b>
家計動向関連	63.2	44.6	55.3	64.6	66.7
企業動向関連	42.2	42.9	55.0	50.0	53.3
雇用関連	55.0	50.0	55.0	50.0	50.0

表2-4 回答構成比

	令和4年 6月	令和4年 9月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月
良くなっている	5.1%	3.6%	12.1%	5.4%	6.1%
やや良くなっている	42.4%	17.9%	25.9%	46.4%	46.9%
変わらない	30.5%	41.1%	36.2%	30.4%	32.7%
やや悪くなっている	18.6%	28.6%	22.4%	16.1%	14.3%
悪くなっている	3.4%	8.9%	3.4%	1.8%	0.0%

### ③ 鹿行地域

景気の現状判断DIは55.6となった。前回調査より4.2ポイント上昇して、横ばいを表す50を2期連続で上回った。

表2-5 景気の現状判断DI

分野	調査年月	令和4年 6月	令和4年 9月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月
合計		<b>55.7</b>	<b>45.3</b>	<b>49.6</b>	<b>51.4</b>	<b>55.6</b>
	家計動向関連	61.4	41.7	50.7	50.8	54.3
	企業動向関連	44.7	50.0	48.6	51.5	57.7
	雇用関連	60.0	56.3	45.0	56.3	58.3

表2-6 回答構成比

	令和4年 6月	令和4年 9月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月
良くなっている	7.0%	1.7%	3.5%	7.4%	13.3%
やや良くなっている	33.3%	22.4%	21.1%	27.8%	24.4%
変わらない	36.8%	36.2%	49.1%	35.2%	37.8%
やや悪くなっている	21.1%	34.5%	22.8%	22.2%	20.0%
悪くなっている	1.8%	5.2%	3.5%	7.4%	4.4%

### ④ 県南地域

景気の現状判断DIは55.1となった。前回調査より3.7ポイント上昇して、横ばいを表す50を2期連続で上回った。

表2-7 景気の現状判断DI

分野	調査年月	令和4年 6月	令和4年 9月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月
合計		<b>59.4</b>	<b>46.9</b>	<b>47.3</b>	<b>51.4</b>	<b>55.1</b>
	家計動向関連	66.7	47.0	49.3	62.5	62.1
	企業動向関連	50.0	46.1	45.6	38.9	50.0
	雇用関連	45.0	50.0	40.0	30.0	25.0

表2-8 回答構成比

	令和4年 6月	令和4年 9月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月
良くなっている	16.1%	5.3%	7.1%	17.0%	10.2%
やや良くなっている	28.6%	19.3%	19.6%	13.2%	32.7%
変わらない	33.9%	40.4%	35.7%	37.7%	30.6%
やや悪くなっている	19.6%	28.1%	30.4%	22.6%	20.4%
悪くなっている	1.8%	7.0%	7.1%	9.4%	6.1%



⑤ 県西地域

景気の現状判断DIは57.1となった。前回調査より2.2ポイント低下したものの、横ばいを表す50を2期連続で上回った。

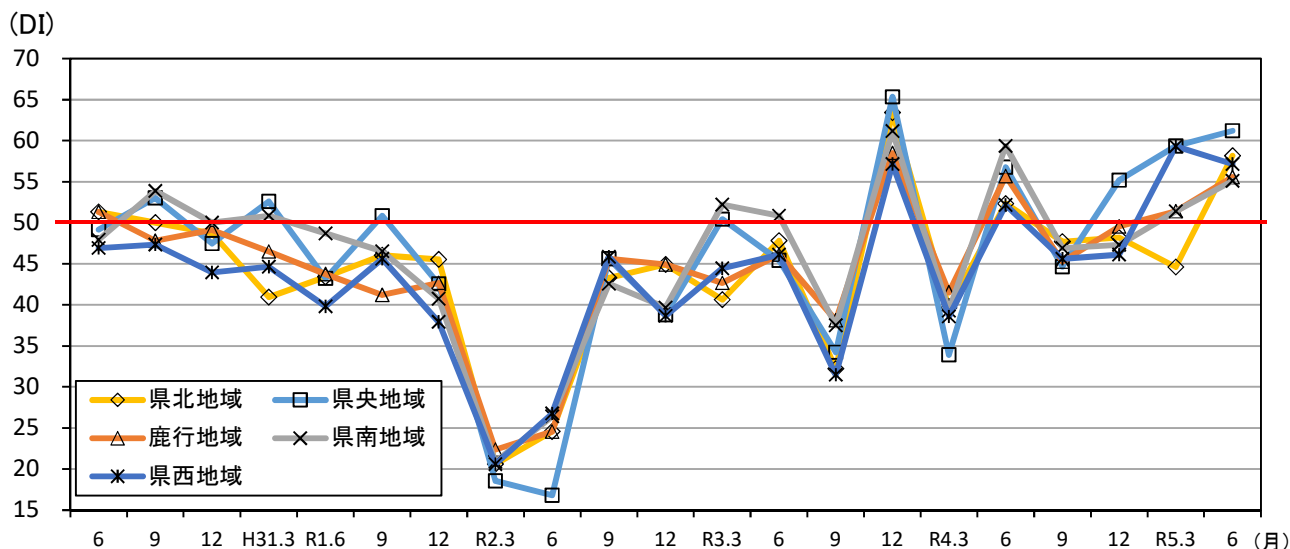
表2-9 景気の現状判断DI

分野	調査年月	令和4年 6月	令和4年 9月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月
合計		52.2	45.6	46.1	59.3	57.1
家計動向関連		60.6	44.9	46.3	65.7	58.3
企業動向関連		38.2	45.8	42.1	47.4	55.0
雇用関連		50.0	50.0	60.0	60.0	56.3

表2-10 回答構成比

	令和4年 6月	令和4年 9月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月
良くなっている	5.3%	1.8%	0.0%	10.2%	6.1%
やや良くなっている	38.6%	24.6%	27.6%	37.3%	42.9%
変わらない	26.3%	42.1%	41.4%	35.6%	28.6%
やや悪くなっている	19.3%	17.5%	19.0%	13.6%	18.4%
悪くなっている	10.5%	14.0%	12.1%	3.4%	4.1%

図2-1 地域別現状判断DIの推移



	H30.6	H30.9	H30.12	H31.3	R1.6	R1.9	R1.12	R2.3	R2.6	R2.9	R2.12	R3.3	R3.6	R3.9	R3.12	R4.3	R4.6	R4.9月	R4.12月	R5.3月	R5.6月
県全体	49.3	50.4	47.8	47.1	43.8	46.1	41.9	20.6	23.8	44.6	41.4	46.1	47.3	34.7	61.2	38.6	55.3	46.0	49.3	53.5	57.5
県北	51.3	50.0	48.7	40.9	43.4	46.1	45.5	20.6	24.6	43.3	44.9	40.8	47.8	32.2	63.4	39.6	52.3	47.7	48.2	44.6	58.2
県央	49.2	53.0	47.5	52.6	43.2	50.9	42.5	18.5	16.8	45.6	38.8	50.5	45.4	34.2	65.4	33.9	56.8	44.6	55.2	59.4	61.2
鹿行	51.3	47.8	49.1	46.5	43.8	41.2	42.7	22.4	24.6	45.6	44.9	42.7	46.1	38.1	58.5	41.5	55.7	45.3	49.6	51.4	55.6
県南	47.9	53.9	50.0	50.9	48.7	46.6	40.7	20.9	26.4	42.5	39.7	52.2	50.9	37.5	61.2	39.3	59.4	46.9	47.3	51.4	55.1
県西	46.9	47.4	44.0	44.6	39.8	45.6	37.9	20.6	26.8	45.8	38.7	44.4	46.1	31.5	57.1	38.6	52.2	45.6	46.1	59.3	57.1
全国	49.3	47.7	46.9	45.1	44.3	45.4	39.7	14.1	38.6	48.2	36.0	47.8	45.8	42.7	58.3	47.1	52.1	48.9	48.7	53.3	53.6(季節調整値)
	48.2	47.3	48.2	46.7	43.3	45.7	40.7	15.9	38.0	48.7	36.5	49.5	45.4	43.3	58.6	48.9	51.8	49.6	49.0	55.2	53.6(原数値)

## (2)景気の先行き判断DI

### ① 県北地域

景気の先行き判断DIは56.1となった。前回調査より2.2ポイント上昇して、横ばいを表す50を2期連続で上回った。

表2-11 景気の先行き判断DI

分野	調査年月	令和4年 6月	令和4年 9月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月
合計		<b>50.5</b>	<b>38.9</b>	<b>40.2</b>	<b>53.9</b>	<b>56.1</b>
	家計動向関連	51.5	38.6	42.6	56.5	60.0
	企業動向関連	50.0	39.7	37.5	50.0	51.7
	雇用関連	43.8	37.5	31.3	50.0	43.8

表2-12 回答構成比

	令和4年 6月	令和4年 9月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月
良くなっている	7.4%	0.0%	0.0%	3.9%	6.1%
やや良くなっている	33.3%	16.7%	19.6%	39.2%	32.7%
変わらない	20.4%	35.2%	37.5%	37.3%	40.8%
やや悪くなっている	31.5%	35.2%	26.8%	7.8%	20.4%
悪くなっている	7.4%	13.0%	16.1%	11.8%	0.0%

### ② 県央地域

景気の先行き判断DIは56.1となった。前回調査より4.6ポイント低下したものの、横ばいを表す50を2期連続で上回った。

表2-13 景気の先行き判断DI

分野	調査年月	令和4年 6月	令和4年 9月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月
合計		<b>58.5</b>	<b>51.8</b>	<b>43.5</b>	<b>60.7</b>	<b>56.1</b>
	家計動向関連	62.5	52.7	42.1	63.2	61.7
	企業動向関連	50.0	50.0	55.4	53.3	48.3
	雇用関連	55.0	50.0	30.0	65.0	43.8

表2-14 回答構成比

	令和4年 6月	令和4年 9月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月
良くなっている	5.1%	0.0%	0.0%	7.1%	6.1%
やや良くなっている	44.1%	33.9%	13.8%	42.9%	28.6%
変わらない	32.2%	41.1%	50.0%	37.5%	49.0%
やや悪くなっている	16.9%	23.2%	32.8%	10.7%	16.3%
悪くなっている	1.7%	1.8%	3.4%	1.8%	0.0%

### ③ 鹿行地域

景気の先行き判断DIは51.7となった。前回調査より2.0ポイント低下したものの、横ばいを表す50を2期連続で上回った。

表2-15 景気の先行き判断DI

分野	調査年月	令和4年 6月	令和4年 9月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月
合計		<b>50.9</b>	<b>45.3</b>	<b>48.2</b>	<b>53.7</b>	<b>51.7</b>
	家計動向関連	52.3	45.1	43.4	58.3	51.7
	企業動向関連	44.7	45.8	59.7	45.6	48.1
	雇用関連	65.0	43.8	40.0	50.0	66.7

表2-16 回答構成比

	令和4年 6月	令和4年 9月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月
良くなっている	1.8%	0.0%	1.8%	13.0%	0.0%
やや良くなっている	35.1%	19.0%	21.1%	16.7%	33.3%
変わらない	29.8%	51.7%	49.1%	46.3%	42.2%
やや悪くなっている	31.6%	20.7%	24.6%	20.4%	22.2%
悪くなっている	1.8%	8.6%	3.5%	3.7%	2.2%

### ④ 県南地域

景気の先行き判断DIは51.0となった。前回調査より5.6ポイント低下したものの、横ばいを表す50を2期ぶりに上回った。

表2-17 景気の先行き判断DI

分野	調査年月	令和4年 6月	令和4年 9月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月
合計		<b>53.6</b>	<b>47.8</b>	<b>47.3</b>	<b>56.6</b>	<b>51.0</b>
	家計動向関連	61.4	49.2	44.9	63.3	55.2
	企業動向関連	44.4	46.1	52.9	50.0	43.8
	雇用関連	35.0	45.0	45.0	40.0	50.0

表2-18 回答構成比

	令和4年 6月	令和4年 9月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月
良くなっている	12.5%	1.8%	5.4%	13.2%	6.1%
やや良くなっている	21.4%	21.1%	10.7%	32.1%	22.4%
変わらない	37.5%	50.9%	55.4%	30.2%	44.9%
やや悪くなっている	25.0%	19.3%	25.0%	17.0%	22.4%
悪くなっている	3.6%	7.0%	3.6%	7.5%	4.1%

⑤ 県西地域

景気の先行き判断DIは52.6となった。前回調査より1.2ポイント低下したものの、横ばいを表す50を2期連続で上回った。

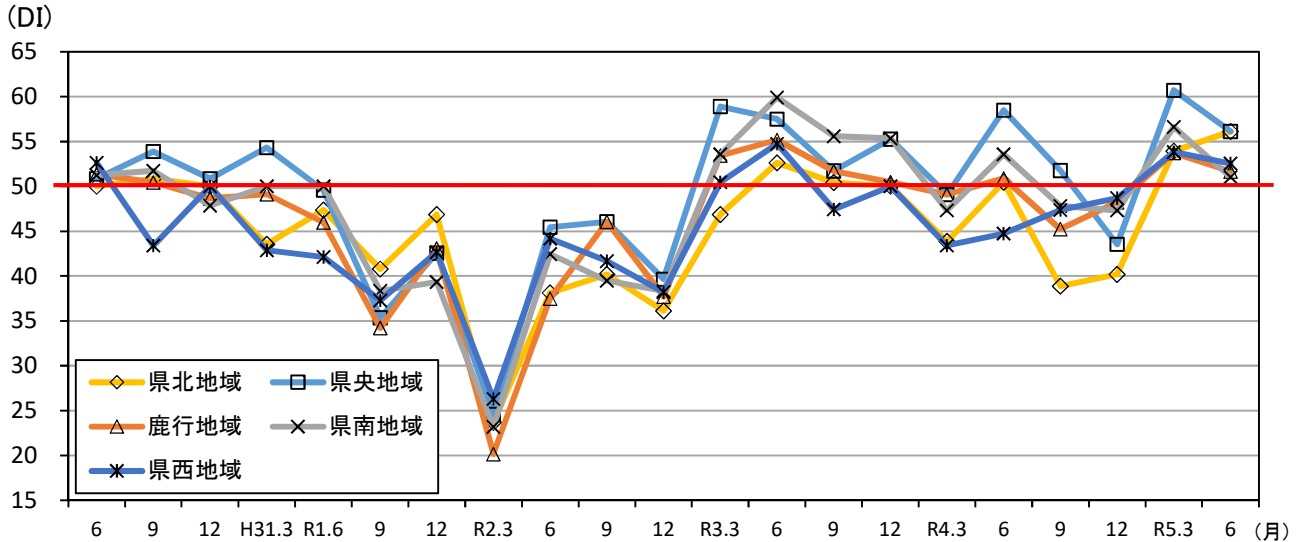
表2-19 景気の先行き判断DI

分野	調査年月	令和4年 6月	令和4年 9月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月
合計		44.7	47.4	48.7	53.8	52.6
家計動向関連		47.7	47.8	47.8	57.9	50.8
企業動向関連		36.8	45.8	47.4	46.1	53.3
雇用関連		55.0	50.0	60.0	55.0	62.5

表2-20 回答構成比

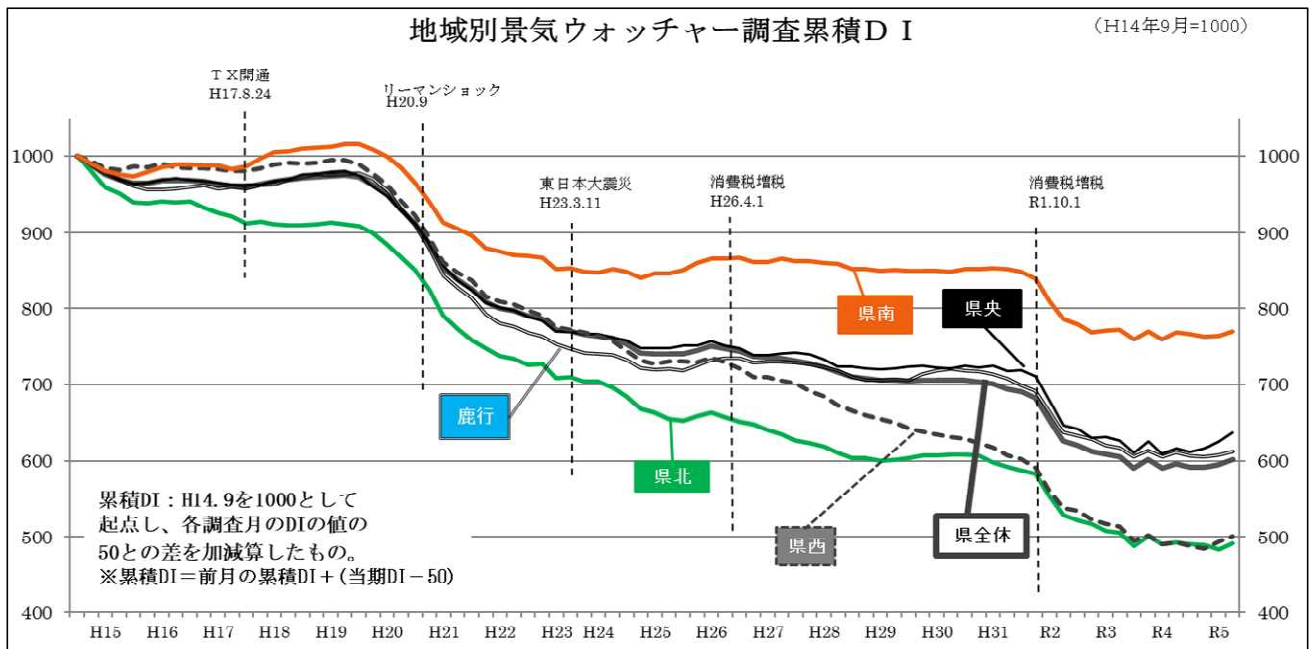
	令和4年 6月	令和4年 9月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月
良くなっている	0.0%	3.5%	1.7%	5.1%	6.1%
やや良くなっている	28.1%	24.6%	25.9%	32.2%	20.4%
変わらない	33.3%	38.6%	43.1%	39.0%	55.1%
やや悪くなっている	28.1%	24.6%	24.1%	20.3%	14.3%
悪くなっている	10.5%	8.8%	5.2%	3.4%	4.1%

図2-2 地域別先行き判断DIの推移



	H30.6	H30.9	H30.12	H31.3	R1.6	R1.9	R1.12	R2.3	R2.6	R2.9	R2.12	R3.3	R3.6	R3.9	R3.12	R4.3	R4.6	R4.9月	R4.12月	R5.3月	R5.6月
県全体	51.2	50.1	49.5	48.0	47.1	37.2	42.9	23.6	41.5	42.7	38.0	52.7	56.0	51.4	52.2	46.6	51.7	46.3	45.6	55.8	53.5
県北	50.0	50.9	50.0	43.5	47.4	40.8	46.9	23.7	38.1	40.2	36.1	47.4	52.6	50.4	50.0	43.9	50.5	38.9	40.2	53.9	56.1
県央	50.8	53.9	50.8	54.3	49.6	35.3	42.5	24.6	45.5	46.1	39.7	58.6	57.5	51.8	55.3	49.1	58.5	51.8	43.5	60.7	56.1
鹿行	51.3	50.4	48.7	49.1	46.0	34.2	43.1	20.2	37.5	46.1	37.7	53.4	55.2	51.7	50.5	49.1	50.9	45.3	48.2	53.7	51.7
県南	51.3	51.7	47.8	50.0	50.0	38.4	39.4	23.2	42.5	39.5	38.4	53.6	59.9	55.6	55.4	47.3	53.6	47.8	47.3	56.6	51.0
県西	52.6	43.4	50.0	42.9	42.1	37.3	42.7	26.3	44.2	41.7	38.2	50.5	54.7	47.4	50.0	43.4	44.7	47.4	48.7	53.8	52.6
全国	50.4	51.2	47.6	48.1	45.7	36.9	45.1	18.8	44.2	47.2	36.7	48.7	51.9	56.6	50.1	48.4	48.4	49.2	46.8	54.1	52.8(季節調整値)
	50.9	50.7	47.0	47.9	46.3	36.7	44.5	18.7	44.8	47.1	36.1	48.6	52.6	56.7	49.5	48.4	49.2	49.3	46.3	54.1	53.6(原数値)

(参考) 地域別累積DI



### III 景気の判断コメント — 1 景気の現状判断コメント

#### (1) 県北地域 【現状】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	スーパー	商品の値上げもあるが、客数と客単価も伸びて売上げも伸びている。競合店が4月に1店舗オープンしたが、良い状況である。
		コンビニエンスストア	新型コロナウイルスの規制緩和により県外からの移動が増えたため、良くなっていると判断した。
		ゴルフ場	新型コロナウイルスの分類が第5類感染症になったことで様々な制限が緩和され、人の動きが活性化していると思うので、良くなっていると判断した。
企業	製造業（化学工業）	取引先の動きが活発になっている実感があるため、良くなっていると判断した。	
やや良くなっている	家計	スーパー	4月から6月にかけての売上の流れとしては、4月から5月にかけて伸びていき梅雨とともに落ちるのが例年の流れだが、今年の梅雨は現状大きな天気の崩れも少なく好調に推移しているため、やや良くなっていると判断した。また、新型コロナウイルスが第5類感染症に移行したことによる規制緩和の流れも好調要因として挙げられる。
		小売業（弁当・惣菜店）	5月頃から少しイベントも復活し、人の流れも徐々にではあるが戻ってきたように感じるため、やや良くなっていると判断した。
		自動車販売店	新車の納期が少し改善されてきたことや、新型コロナウイルスが5類感染症に移行したため、人の動きが活発になり購買意欲が高くなってきたことにより、やや良くなっていると判断した。
		小売業（酒類）	新型コロナウイルスの影響が減少傾向になり、他の飲食店も約5割位回復してきたとの声を聞いている。売上げ実績も少しずつ良くなってきたため、やや良くなっていると判断した。
		小売業（時計）	3か月前より客数が少し多くなってきている（単価は変わらず低い）ため、やや良くなっていると判断した。
		スナック	スナックはあまり客が戻ってないようだが、居酒屋等は繁盛してるようなので、やや良くなっていると判断した。
		日本料理店	新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行で人の動きが活発になってきている。市内の飲食店でも夜の会合、宴会が増えてきており、冠婚葬祭の行事が増えつつあるため、やや良くなっていると判断した。
		観光型ホテル	ホテル経営の目線でいえば、宿泊補助事業の影響で現在は多くの客が利用しているため、やや良くなっていると判断した。しかし、宿泊補助事業がなくなることが目前に迫り、宿泊業界は今後が不安となる。割引及びクーポン券の影響の大きさを日々感じている。客は来ているが、あくまで一時的な回復のように感じる。
		観光型ホテル	新型コロナウイルスが5類感染症に移行したことにより、以前より気兼ねなく旅行や宴会をしやすくなったため、やや良くなっていると判断した。宿泊や宴会の予約の件数が増えており、1組の人数も若干増えている。
		旅行会社	少しずつ、客から声がかかるようになってきたため、やや良くなっていると判断した。
		タクシー会社	3月よりも売上げが伸びている。前年の6月より売上げが伸びているため、やや良くなっていると判断した。
		ドライブイン	売上だけだと物価高の影響もあると思うが、客数も同様に伸びたため、やや良くなっていると判断した。平均単価には変化はない。
		ゴルフ場	新規での客が増えたため、やや良くなっていると判断した。
ゴルフ場	前年度より売上げが上っていると実感するため、やや良くなっていると判断した。		

やや良くなっている	企業	製造業（金属製品）	3月、4月の売上げが非常に厳しかった。そこからすると多少は良くなったため、やや良くなっていると判断した。仕事量は変わらずといったところ。
		製造業（電気機械器具）	生産性が多少なりとも向上して、売上げも伸びてきた。また、月に6時間程度残業もあるため、やや良くなっていると判断した。
		製造業（精密機械器具）	仕事の受注がコロナ禍前の時のように少し回復したように思うので、やや良くなっていると判断した。ただし、まだ半導体に関しては安定していないので順調に延びていくかどうかは疑問である。
		金融業	GW明けの新型コロナウイルス感染症5類感染症移行に伴いコロナ禍前の日常への期待感が高まり、業種別実態に差はあるものの総体的な経済活動は回復基調にあるものと思われるため、やや良くなっていると判断した。
		非製造業（その他）	案件量により、やや良くなっていると判断した。
雇用	求人開拓員	新型コロナウイルス対策が緩和されたからか、4月より求職者の来所が増えているため、やや良くなっていると判断した。	
変わらない	家計	コンビニエンスストア	コロナ禍が落ち着いてきた中だが、コロナ禍による業績悪化による影響が徐々に出てきており、物価高騰などの影響もあり、消費者心理はまだまだ冷えていると感じているため、変わらないと判断した。
		衣料品販売店	都会は上向いていても、当地は給料も景気も変わらない。
		小売業（水産物）	売上げが向上しないし、来客も増加しないため、変わらないと判断した。
		タクシー運転手	客の様子から、夜の飲食店は新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行になり多少の動きは出てきたが、物価高騰もありまだまだ上向きにならないと思われるため、変わらないと判断した。
		ゴルフ場	動向は変わらない。
		写真店	予約件数の昨年、一昨年との比較状況や客の声から窺える消費動向（レジャー等に向かう状況）を踏まえて、変わらないと判断した。
	企業	水産業関係者	要因がみられなかったため、変わらないと判断した。
		製造業（電気機械器具）	液晶・半導体製造装置関連において注残が多い状況が継続しているため、変わらないと判断した。
		製造業（電気機械器具）	2022年度第3四半期はやや生産量が落ちたが、2023年度第1四半期も前期と同じような推移をしているため、変わらないと判断した。
		製造業（精密機械器具）	受注状況は3か月前に引き続き比較的良好であるため、比較して変わらないと判断した。
製造業（その他）		会社の仕事量は変わらない。むしろ増加傾向にある。しかし、原材料価格の値上げは天井知らずな上、電気、重油など主要原価もかつてない値上げ幅となっている。このため利益が相殺され、景気が良くなっている実感はないため、変わらないと判断した。	
建設業	見積件数等から、さほど変化はないので変わらないと判断した。		
雇用	求人広告	新型コロナウイルスの5類感染症移行はプラス要因で一部広告出稿が増えてはいるが、物価高騰の影響で広告費の削減割合が上回っており好転はしていないため、変わらないと判断した。	
	学校就業関係者	取引先や来訪者の会話などから、変わらないと判断した。	
やや悪くなっている	家計	商店街代表者	電気料金の値上げによる消費の買控えのため、やや悪くなっていると判断した。
		小売業（食料品）	資材費の高騰が止まらない。売上げも前年割れのため、やや悪くなっていると判断した。
		レストラン	既存店の隣に大型ショッピングモール（競合店）が出来た影響が大きいので、やや悪くなっていると判断した。
		レジャー施設	経理係として従事しているため、日々において個別の物価を見ているが、未だ物価上昇は止まらない。また、物価上昇に伴い各種手数料や人件費増などがあり、企業としてはやや落ち込みを感じる。客の様子では、新型コロナウイルスが第5類感染症となったことにより出足が良くなりコロナ禍前の様相に戻りつつあるため、個人消費といった観点であれば、3か月前との比較では上昇傾向にあるが、総合してやや悪くなっていると感じる。
		美容室	物価高の影響で顧客の財布の紐が固くなっているため、やや悪くなっていると判断した。
	企業	建設業	建築業の視点で見ると、住宅着工棟数の減少を受けて、あらゆる業者間で仕事の受注や売上げの減少はよく聞かれるため、やや悪くなっていると判断した。業界の職人不足も深刻だと思う。
		不動産業	賃貸では、入居より退去が多い月が続き、特に家賃の高い物件の空きが増加傾向にある。売買でも、価格の低い中古住宅や狭めの安い土地を探している客が多いため、やや悪くなっていると判断した。
雇用	公共職業安定所	新規求人が13.2%低下しているため、やや悪くなっていると判断した。	
悪	家計	設計事務所	仕事の依頼がないため、悪くなっていると判断した。周辺で工事しているところもあるが、住宅のような小規模の工事ばかりだ。

## (2) 県央地域 【現状】

回答	分野	業種・職種	コメント
良くなっている	家計	コンビニエンスストア	GWや週末の状況から、5月の新型コロナウイルス感染症5類感染症移行の影響含め外出する人が増え、客数増加に繋がっていると実感しているため、良くなっていると判断した。
		スーパー銭湯	客数、客単価とも上昇傾向のため、良くなっていると判断した。また、物価高による価格転換もしたが、同業者も値上げをしているため、大きな影響が出ていない。
		住宅販売会社	建築の注文住宅の契約が以前と比べ増えているため、良くなっていると判断した。理由としては、エコ住まい補助金が始まり多く申請されているためであり、期日が6月ぐらいまでの契約が補助金対象となるため、契約が増えている。
やや良くなっている	家計	商店街代表者	コロナ禍前の状態に戻ってきて、日常生活はほぼ以前の状態になってきているため、やや良くなっていると判断した。
		商店街代表者	週末を中心に商店街への人通りが増えてきているため、やや良くなっていると判断した。
		小売業	新型コロナウイルスの収束を背景に、人の動きが出ており、消費の活発化が見られる。店内イベント、催事等に活気が感じられるため、やや良くなっていると判断した。
		スーパー	3か月前は、客数・供給共に前年比を割っていたが、直近では供給・客数ともに前年を超過しておりやや回復傾向であるため、やや良くなっていると判断した。構造的には、原料価格高騰に伴ってほぼ毎月商品の値上げがあり、1点あたりの単価が上昇し、客1人あたりの買上点数は減少。単価の上昇で、点数減を補っている状況である。
		コンビニエンスストア	客足がコロナ禍前に戻っているため、やや良くなっていると判断した。
		楽器販売	例年この季節は動きが良いが、例年に比べ販売の動きが早く、また数も例年以上に動いている。また単価が上がった（価格改定などで）にも関わらず堅調に伸びているのは、少しではあるが景気上昇の流れが始まっているのかと考えるため、やや良くなっていると判断した。
		自動車販売店	客の動きが活発になってきている（来店、契約増）ため、やや良くなっていると判断した。
		農産物直売所	来場者が増え、買上げ点数もやや増となったため、やや良くなっていると判断した。
		日本料理店	5月の新型コロナウイルスの緩和、マスク緩和により、来客数は増えてきている。インバウンドも少しずつ増えてきているため、やや良くなっていると判断した。
		割烹料理店	新型コロナウイルスの影響がなくなり始めていて、少しずつだが人数の多い宴会や法要などが増えてきたため、やや良くなっていると判断した。
		都市型ホテル	レストラン、宴会など利用が増えているため、やや良くなっていると判断したが、宴会1件の利用人数は以前より少なくなっている。
		旅行代理店	問合せが増えたため、やや良くなっていると判断した。
		バス運転手	朝夕の通勤通学時間帯のバス利用者がだいぶ戻ってきたように感じる。バス車内外問わず人込みを避ける感じも薄らいできたため、やや良くなっていると判断した。
		タクシー運転手	新型コロナウイルスの感染者数も落ち着き、第5類感染症に引き下げられた事から、夜の繁華街も少しずつ賑わいを取り戻しつつある。中・長距離の客も少しずつながら増えているように感じる。客単価が上がっている事から、やや良くなっていると判断した。
		道の駅	新型コロナウイルスの規制緩和で、観光業は以前の水準にはまだ届かないが、飲食店には客が戻ってきた。しかし、金が続くわけもなく、一般のあらゆるものが値上げとなっているため、消費は伸びないというより、減少に転じていると思う。ただ、人の動きは良くなってきているため、やや良くなっていると判断した。
		ボウリング場	客入りも売上げも、前年対比を上回っているため、やや良くなっていると判断した。
設計事務所	様々なところで、コロナ禍前への回帰が見られるように思う。都内などのインバウンドも著しく回帰が感じられるため、やや良くなっていると判断した。		

やや良くなっている	企業	製造業（食料品）	新型コロナウイルスの状況の変化により、特にGWの動きがよかったため、やや良くなっていると判断した。ただ、GW明けは一転してよくない。	
		製造業（金属製品）	売上予測について、2022年末での予測金額に対し、2023年当初からの実績が5%ほど上回って推移している。また、直近の客2~3社から今夏から2024年当初にかけて10~20%の増産協力依頼が来ている。5月連休明けの新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後、近隣や出張先での人の動きも活発化しており、景気回復を実感しているため、やや良くなっていると判断した。	
		製造業（精密機械器具）	昨年より引き合いが増えているため、やや良くなっていると判断した。	
		運輸業	徐々に顧客製品の出荷台数も増えてきているため、やや良くなっていると判断した。	
		情報通信業（情報サービス業）	新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行により顧客との面会や会食機会が増え、良い意味で元気になってきていると感じるため、やや良くなっていると判断した。	
変わらない	家計	スーパー	新型コロナウイルスの影響は少なくなってきたが、物価高騰による価格上昇で買控えが起きている。観光業はコロナ禍前に近い人出かと思うが、小売業は3か月前とさほど状況は変わっていない。	
		酒・各種商品小売業	4月、5月は旅行割引もあり、新型コロナウイルスも落ち着いてきたため、観光客は昨年と比べたら良いと思うが3か月前と比べて変わりはない。	
		小売業	新型コロナウイルス感染症が5類感染症になり、多少人の動きが出てきている感じはあるものの、あまり売上げには結びついておらず、前年比等もほぼ変化は見られないため、変わらないと判断した。	
		レジャー施設	新型コロナウイルスの行動制限の解除で集客イベント等は増加傾向にあるが、原材料費の高騰で支出負担額も増えており、景気の回復傾向は変わらないように感じる。	
		理・美容店	リピーターがほとんどで、宣伝、チラシなどは一切やっていないので、1年を通してさほど変化がないように思うため、変わらないと判断した。	
		製造業（窯業・土石製品）	3か月前と比較して変わらず受注が来ているため、変わらないと判断した。	
		製造業（輸送用機械器具）	半導体の供給懸念は一部を除きリスクは低下しているが、製品レベルにおける生産障害は依然リスクを抱えながらの生産が継続しており、回復が遅れ気味となっているため、変わらないと判断した。	
		建設業	コロナ禍が明け、何の変化も見られない。	
		建設業	特に変化がないため、変わらないと判断した。	
		運輸業（道路貨物運送業）	燃料費の高止まりは相変わらずであり、コロナ禍が一段落した現在も貨物の動きは鈍いと感じられるため、変わらないと判断した。	
		金融業	物価上昇及び水道光熱費等固定費増加の影響は依然として継続している状況であり、コロナ禍と比較すれば購買意欲は上昇しているものの、賃金上昇は追いついておらず可処分所得は減少していることもあり、総体的には景気上昇に繋がっていないものと思慮される。新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行により、飲食業等特定業種に対する一定の顧客回帰はあるが、景気が回復しているとは言えない状況であるため、変わらないと判断した。	
		雇用	学校就業関係者	コロナ禍以降、採用人事を抑制していた企業も採用活動の再開するなど、企業側の採用意欲は高い傾向にあり、求人情報の提供も3か月前と同様に多い状況が継続しているため、変わらないと判断した。
			求人開拓員	当施設を利用する求職者の人数に大きな変化が感じられないため、変わらないと判断した。
やや悪くなっている	家計	観光型ホテル	6月に入り、いば旅の旅行支援はあるものの予約が弱いため、やや悪くなっていると判断した。	
		観光名所	3ヶ月前と比較して客単価・売上げがやや減少しているため、今月の景気はやや悪くなっていると判断した。	
		ゴルフ場	新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行により、レジャーの選択肢が増加した。感染リスクの低いレジャーとしてゴルフニーズも高まっていたが、若干減衰しているため、やや悪くなっていると判断した。	
	企業	製造業（印刷・同関連業）	3か月前と今の対前年比で比べると3か月前の方が伸び率が良かったため、やや悪くなっていると判断した。	
		製造業（一般機械器具）	新型コロナウイルス感染症が5類感染症になり人の動きが活発になったが、生産量は減少傾向にある。ここに来て自動車関連の仕事が落ちてきているため、やや悪くなっていると判断した。	
不動産業	マンション分譲に関しては、集客・販売も比較的例年どおり。注文住宅に関しては、住宅関連資材高騰による売価見直しの影響もあり、集客に苦戦している。不動産売買全般として、高額商品となるため、個人消費は慎重な動きのため、やや悪くなっていると判断した。			
雇用	求人広告	人手不足の声は聞くが採用にかかる予算はあまりとれないようなので、やや悪くなっていると判断した。		



(3) 鹿行地域 【現状】

回答	分野	業種・職種	コメント	
良くなっている	家計	農産物直売所	コロナ禍明けでたくさんのお客様があるため、良くなっていると判断した。	
		小売業（菓子類）	3か月前の対前年比の売上げより今月の対前年比の売上げが良いため、良くなっていると判断した。	
		小売業	今月は、当店の会員に夏物カタログを配布する時期なので、例年と同様に他の月より来店客が多くなっているが、それは毎年のことである。ただし、例年に比べ客の反応も良く、注文が入っているため、良くなっていると判断した。	
		旅行代理店	新型コロナウイルス対策の緩和に加え、全国旅行支援などで旅行が好調のため、良くなっていると判断した。	
		道の駅	5月度の売上がオープンしてからの20年間で最も数字を伸ばすことができたため、良くなっていると判断した。	
	企業	製造業（ゴム製品）	客先からのオーダーが増えたため、良くなっていると判断した。	
やや良くなっている	家計	スーパー	売上高は好調に推移しており客数も伸びているため、やや良くなっていると判断した。	
		洋食食堂	5月にPayPayの30%ポイント還元イベントに参加したところ、予想を遥かに上回る成果があり、6月も5月に引きずられるように堅調なため、やや良くなっていると判断した。	
		日本料理店	コロナ禍も落ち着き企業関係が増えてきたため、やや良くなっていると判断した。	
		観光型ホテル	客単価が少し伸びているため、やや良くなっていると判断した。	
		ゴルフ場	新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行でレジャーへの期待感も広がり、予約が早めに入るようになっている。団体での利用も増え、客単価も上昇傾向にあるため、やや良くなっていると判断した。	
		クリーニング店	売上げが前年比を超えているので、やや良くなっていると判断した。	
	企業	農業関係者	新型コロナウイルス感染症が2類から5類感染症へ変わり、消費者も購買意欲も高く、前年度より農産物の販売高も順調に推移しているため、やや良くなっていると判断した。	
		建設業	受注件数が若干増えてきたため、やや良くなっていると判断した。	
		保険業	東関東自動車道路建設工事が増えてきているため、やや良くなっていると判断した。	
		サービス業	新型コロナウイルスの鎮静化に伴い顧客と面着でのコンタクトが増加傾向にあり、これは社会全体でも同様の傾向と推定され経済活動自体が活発化してきているため、やや良くなっていると判断した。	
	雇用	求人開拓員	新型コロナウイルスの感染減少に伴い、業種にもよるが若干上向きになっているものと判断する。事業所訪問して感じたことではあるが、大企業の大型プラント下請け関連事業者からの求人は安定して出されている印象。観光業に関しては人員不足が経営者の悩みの種になっている。ある地域については、農業が主産業であるが求人は変わらず出ている。	
	変わらない	家計	商店街代表者	コロナウイルス感染症が5類感染症に移行されたことで人の動きが活発になり売上は回復傾向にあるが、原材料価格の高騰やエネルギー価格の高騰が利益を圧迫しており経営が厳しくなっているため、変わらないと判断した。
			スーパー	3か月前と比較すると、客数、買上点数、客単価の傾向はおおよそ変わっていないため、変わらないと判断した。
			家電販売店	3か月前と比較しても客数の伸びは変化していないため、変わらないと判断した。消耗品、必需品は売れているが、売上げ確保に苦戦している。
小売業（食品）			業種により違いがあるようだ。新型コロナウイルスの影響は緩和されたが、まだ動きは元に戻らないため、変わらないと判断した。	
和食レストラン			依然として、原材料の高騰及び電気料金等の値上げにて状況に変化がないため、変わらないと判断した。	
割烹料理店			新型コロナウイルスの規制が緩和されてはいるが、感染したり濃厚接触だということでの予約のキャンセルが未だにあるため、変わらないと判断した。	
ゴルフ場			新型コロナウイルスの終息が見られ外出する人の流れは以前より戻りつつあるが、物価高騰などの煽りを受け、3か月前と比較した場合に変化は感じられなかったため、変わらないと判断した。	
レジャー施設			新型コロナウイルス感染症が2類感染症相当から5類に移行され、人の動きは活発になったが、物価高、エネルギー価格上昇等により消費があまり上がっていないため、変わらないと判断した。	
住宅販売会社		問合せが増えないため、変わらないと判断した。		
企業		製造業（その他）	受注量、価格、などが変わっていないので、変わらないと判断した。	
		製造業（鉄鋼業）	大きく状況が変化する材料はなかったため、変わらないと判断した。	
		運輸業（道路貨物運送業）	電話の量も減っていて、特に忙しさを感じないため、変わらないと判断した。	
		金融業	新型コロナウイルス収束もあり産業全般において需要の回復傾向がみられるも、昨今の経済情勢の影響から仕入価格や人件費等の高騰が続いており、各種コスト増から利益確保は難航しているため、変わらないと判断した。	
		不動産業	3月も悪かったので、比較して変わらないと判断した。居酒屋も客が入っている所はまあまあだが、ダメな所は本当に客がいない。	
雇用	公共職業安定所	物価上昇の影響により、製造業などで利益が出にくい状況が続いており、求人申込の状況もあまり良くないため、変わらないと判断した。		

やや悪くなっている	家計	コンビニエンスストア	週末の人の動きは回復しているものの、平日は買控えている傾向にあるため、やや悪くなっていると判断した。
		農産物直売所	値上げラッシュの影響がずっと続いていて、一向に収まる気配がないため、やや悪くなっていると判断した。いつも言うことだが、景気が良くなる要素が全くない。
		小売業（薬品店）	新型コロナウイルス感染症が5類感染症になっても、医療機関及び医療機関訪問はマスクが義務化されており、5類になった実感はない。コロナ禍の3年間で医療機関離れや、薬の長期投与の影響が大きく緩やかに患者が減っているため、やや悪くなっていると判断した。
		運転代行	3か月前（3月頃）と比較して売上げがやや悪くなったので、景気はやや悪くなっていると判断した。
		タクシー運転手	景気は段々と悪くなってきている感じがする。色々と値上げが集中して生活も苦しくなる一方なので、やや悪くなっていると判断した。タクシー料金も近々値上げする方針なので、仕事が減るかもしれない。現状では、暇になればすぐに値上げするが、逆に値下げして利用向上してはどうだろう。
企業	製造業（食料品）	5月上旬までは、まあまあの客足であったが、中旬以後客足が遠のいている。消費者の可処分所得が減っているのではないかと思われるので、やや悪くなっていると判断した。物価の値上げ幅が大きい。	
	製造業（金属製品）	原材料値上げによる生産品（商品単価）のコストアップをお願いしたところ総生産量を絞ることとなったため、やや悪くなっていると判断した。販売品の売れ筋に変化がある。	
悪い	家計	小売業（書店）	インフレで、食料品等の値上げに伴い趣味の品物へは買控えが多いと思うので、悪くなっていると判断した。
		理・美容店	客との会話で、物価高の話題が出ることが多い。困っているが、受け入れるしかないと思っている人が多いように思うので、悪くなっていると判断した。

(4) 県南地域 【現状】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	小売業（米穀）	観光地はもちろん、当地にも外国人観光客が増えている。その客達の消費が増えていると感じるため、良くなっていると判断した。
		タクシー運転手	人の動きが活発で仕事の依頼も増えているため、良くなっていると判断した。
		タクシー会社	高齢者のタクシーチケットが倍になり、外出する人が増えてきているため、良くなっていると判断した。
		ボウリング場	新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行してから、客の流れが良くなっているため、良くなっていると判断した。
		設計事務所	低価格住宅を販売したところ、客が多く来社したため、良くなっていると判断した。
やや良くなっている	家計	スーパー	買上げ点数の低下分を1品単価でカバーできており、売上げが前年を達成する事ができているため、やや良くなっていると判断した。
		スーパー	物の値上げが続いている事や、卵が品薄である事などで売上高は上昇している。ディスカウントを主体としているスーパーには追い風だと感じているので、やや良くなっていると判断した。
		スーパー	新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後、外食が思ったほど振るわず中食が伸びている関係で小売業は好調に推移しているため、やや良くなっていると判断した。当初は値上げによる単価上昇による供給増だったが、徐々に点数も伸びてきている。
		小売業（生花店）	業務量が増えてきたため、やや良くなっていると判断した。
		洋食レストラン	コロナ禍も落ち着き、以前よりも団体（4～5名）の客が増えた気がする。単価も前より増加傾向にあり、これは時間を気にせず滞在時間が増え、プラス1品のデザート、ドリンクなどが注文されているからだと思うので、やや良くなっていると判断した。
		日本料理店	例年に比べ客単価が上がっており、前年比と比べると伸び率が2倍になっているため、やや良くなっていると判断した。
		食堂	週末と、グループの客が多くなってきたため、やや良くなっていると判断した。
		都市型ホテル	客の人数、売上げが増加傾向にあるため、やや良くなっていると判断した。
		タクシー運転手	利用客が増えてきたので、やや良くなっていると判断した。
		サービスエリア	観光利用の客が増加しており、また、外国人観光客も若干ながら回復が見られる。マスク着用を含む新型コロナウイルスの感染予防の緩和もあり、GWはもちろんのこと、平日に学生や新入社員によるバス利用も多数見られたため、やや良くなっていると判断した。
	住宅販売会社	新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことにより、客の動向がコロナ禍前にほぼ戻っていると感じられるため、やや良くなっていると判断した。	
	企業	製造業（食料品）	業務用・小売共に緩やかに売上げが増えている。商品の一部の値上げもした。原材料や燃料費の値上げもあるが、主要な商品単価は横ばいを維持している。燃料費の推移に左右されると思うが、現状から判断すれば、やや良くなっていると判断した。
		製造業（飲料）	クラフトビールの売上げが前年より好調であること、ワインも注力ブランド商品の売上げが好調であること、また、新型コロナウイルスの規制緩和を受け外食の利用も増えることから、やや良くなっていると判断した。
製造業（非鉄金属）		コロナ禍から脱却しつつあり、依然として半導体供給不足の懸念は残っているものの、少しずつではあるが主力取引先からの受注が回復してきているため、やや良くなっていると判断した。	
運輸業（倉庫業）		4月からの様々な商品の値上げにより、3月に注文して4月、5月納品になる商品の動きが多かったため、やや良くなっていると判断した。6月になっては、貨物の動きは落ち着きを見せている状況である。アルコール製剤の保管を行っているが、新型コロナウイルスの終息化への動きと共に、取り扱い数量がやや減少傾向にある。	
雇用		求人開拓員	求人票登録件数が前年の4月から6月は442件に対して今年は1022件と登録件数は2.3倍になっていることから、景気が回復し求人が伸びていると思われるため、やや良くなっていると判断した。傾向的には、前年10月頃より求人数が伸びている。
変わらない	家計	小売業	カテゴリーによって好不調あるが、総じて横ばいと思われるため、変わらないと判断した。新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したこともあり、旅行・ウェディング関連が大幅伸張した。また、映画がGW放映作品が大ヒットした事で、コロナ禍前以上の売上げを記録。一方、主力のファッションや雑貨は前年売上げは達成するものの、3月ほどの勢いはなかった。飲食・食物販の推移は変わらない。
		衣料品販売店	3か月前と比べて景気は変わらない。上昇はしていない。安定した上昇が欲しい。
		レストラン	コロナ禍に団体客が減少した分、個人消費は手堅く推移していた。現在も客数は元には戻らないが、客単価は上向きなため、変わらないと判断した。
		都市型ホテル	3か月前の段階で客足は戻り、その後も順調に伸びている。当施設での稼働や売上げ額も、一番良かった頃と同じレベルになっていると思うので、変わらないと判断した。
		テーマパーク職員	季節的な要因を除いて来客数に変わりはないため、変わらないと判断した。
		レジャー施設	入場者・売上げ等変化がないため、変わらないと判断した。

変わらない	企業	農業関係者	6月期（初旬まで）の乗客数・客単価を3月期と比較すると両者とも増加傾向。これは毎年の傾向である。前年同期と比較すると、ほぼ変わりはないため、変わらないと判断した。
		製造業（食料品）	客数も売上げ単価も変わらないため、変わらないと判断した。
		製造業（印刷・同関連業）	3か月前は年度末の繁忙期になるが、時期による差異を差し引いても大きな変化は感じられない。受注数、売上げ額は前年の同時期から比べ若干上がっている。しかし、自社のみならず仕入先や顧客の様子からも、燃料費、材料費などの仕入れ価格の上昇が景気の足を引っ張っているように感じるため、変わらないと判断した。
		製造業（窯業・土石製品）	仕入れ単価を転嫁することができないところが厳しいため、変わらないと判断した。同業でも倒産している。一方、転嫁が進んでいるところは好決算となっている。客も同様であり、2極化が進んでいる。
		製造業（その他）	発注はあるが、新しい人材を入れたりして能率が上がらず、まだまだかと思われるので、変わらないと判断した。
		建設業	3か月前より見積り件数が減少し、値引きの話が多くなった。これからは資材の値上げが続くと思われるので、変わらないと判断した。
		金融業	新型コロナウイルスの影響が減少し、企業訪問に際しても、マスクなしでの仕事姿が目立ち企業活動が平常に戻りつつあるが、エネルギーコスト上昇により事業収益力の低下に悩む経営者の声が多く聞こえるため、変わらないと判断した。
		不動産業	季節的な要因を除けば、特段景気に影響を及ぼす事項もなく、売上げ、客足ともに大きな変化はないため、変わらないと判断した。
やや悪くなっている	家計	家電販売店	新型コロナウイルス対策緩和で金の使いどころに変化が出ていることと、値上がりしている商品があまりにも多く消費者の生活を直撃しているものと思われるため、やや悪くなっていると判断した。
		コンビニエンスストア	物価上昇の煽りを受けて、買控えが起きているため、やや悪くなっていると判断した。
		農産物直売所	物価が上がっている。直売所の客は年金受給者が多い。所得が限られているので、来店数が減少している。GWはコロナの規制緩和の影響なのか、昨年より客数が減少してしまっているため、やや悪くなっていると判断した。
		都市型ホテル	ホテル全体（宿泊・宴会料理、レストラン料理など）で光熱費や様々な物価の値上げにより販売金額を値上げせざるおえなくなっている。消費者の購買意欲にも関わっており、3か月前よりは販売数は減少しているため、やや悪くなっていると判断した。ホテル内にあるレストランを改装し5月末からリニューアルオープンさせたが、ランチの利用はそれなりだがディナーはあまり成績が良くない。夜は特に平日の動きが鈍いと感じる。
		ゴルフ場	客の入りから見てもやや落ち込んでいるようだ。新型コロナウイルス感染症が5類感染症になり、パーティー等も行われる数が増えてきている。明るい雰囲気も戻ってきているが、来場者は少し落ち込んでいるため、やや悪くなっていると判断した。
		理・美容店	値上げしたため、やや悪くなっていると判断した。
	理・美容店	物価の上昇により、やや悪くなっていると判断した。	
	企業	農業関係者	相次ぐ商品の値上げに伴い、買控えする声がよく聞かれたため、やや悪くなっていると判断した。
		製造業（窯業・土石製品）	円安、燃料高、生活品の価格上昇により、やや悪くなっていると判断した。
	雇用	学校就業関係者	求人受付の増加率は3か月前に比べ鈍化したため、やや悪くなっていると判断した。
悪い	雇用	民間職業紹介業	顧客受注数が大幅に減少しているため、悪くなっていると判断した。
		求人広告	求人広告に関してはまだコロナ前の段階には戻っておらず、停滞している。最低時給増加の影響もあり雇用に積極性が見られない。それに逆行して仕入れの値段が上がっているため、悪くなっていると判断した。

## (5) 県西地域 【現状】

回答	分野	業種・職種	コメント	
良	家計	レストラン	売上げが前年より上がっているため、良くなっていると判断した。	
		和食レストラン	3月にマスクがとれてフリーの客が増えている。5月8日以降、更に動きがでているため、良くなっていると判断した。	
		設計事務所	仕事の依頼、問合せが多くなったため、良くなっていると判断した。	
やや良くなっている	家計	商店街代表者	買物客が増えたため、やや良くなっていると判断した。	
		コンビニエンスストア	コロナ禍からの規制解除により、GWや週末等の人流は大きくなっていったと感じる。それにより、売上げの伸長は見られたが、期待されていた値よりは少ない印象だったため、やや良くなっていると判断した。他には、物価上昇による客単価の伸長が見られるが、買上げ点数は減少傾向にあり、全体の売上げは伸びてはいるが、単純に景気が良いとは言えない状況にあるかと感じている。	
		小売業（酒類）	新型コロナウイルス感染症が5類感染症相当に下がったことで、外出や飲食店の利用が増えたため、やや良くなっていると判断した。	
		日本料理店	少人数の予約が入るようになり、来店客数が増えてきたため、やや良くなっていると判断した。	
		食堂	人の流れが活発になってきているように感じる。多くの人の話から、新型コロナウイルスに対する恐怖心もだいぶなくなっているため、やや良くなっていると判断した。	
		旅行代理店	コロナ禍が一般的に終息しつつあるという認識の方が増えて、旅行需要が回復してきたため、やや良くなっていると判断した。	
		タクシー運転手	新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行により、やや良くなっていると判断した。	
		道の駅	来客数とともに客単価が上昇しているため、やや良くなっていると判断した。	
		道の駅	新型コロナウイルス感染症の分類が5類感染症になり、団体のバスが少しずつ増えてきていて、旅行会社の問合せも増えだしてきた。それに伴い、客足も増えてきているように感じるため、やや良くなっていると判断した。	
		レジャー施設	店頭での購買意欲が若干高まっているような感じがあるため、やや良くなっていると判断した。	
		クリーニング店	入荷量が増えているため、やや良くなっていると判断した。	
		企業	畜産業関係者	新型コロナウイルスの影響が少なくなり、流動性が上がったと思うので、やや良くなっていると判断した。
			製造業（窯業・土石製品）	受注微増のため、やや良くなっていると判断した。
製造業（電気機械器具）	受注量が若干回復しており、作業時間の長い勤務への変更申請があるため、やや良くなっていると判断した。			
製造業（金属製品）	円安の影響か、客先の海外事業所で生産していた部品で国内生産に切り換えられたものがあるため、やや良くなっていると判断した。			
製造業（金属製品）	先月終わり位から、取引先からの受注件数が増えてきたため、やや良くなっていると判断した。			
不動産業	賃料が上昇しても申込件数が増えているため、やや良くなっていると判断した。			
サービス業（コンサルタント業）	飲食店に活気が出てきたような気がするため、やや良くなっていると判断した。			
雇用	求人広告	景気が悪いと影響を受けやすいのは広告だが、少し前から徐々に広告を出したいという相談が増えてきた。また相談の内容も「仕方なく広告を出す」というものより、「もっと得るためにどんどん出す」とポジティブなものも多いため、やや良くなっていると判断した。		
	求人開拓員	新型コロナウイルス感染症が5類感染症に変更となり、ショッピングモールなどの人も増えている。就職相談者の状況を見ると、内職相談や就活セミナーの参加者も増えているように思うので、やや良くなっていると判断した。		
変わらない	家計	スーパー	客単価はやや増加しているが、それは商品の値上げによる商品単価の上昇であり、買上げ点数は減少しており、節約志向は高まっているため、変わらないと判断した。	
		衣料品販売店	一般客の来店はほぼ見込めないため、変わらないと判断した。	
		家電販売店	消費行動が、安い物に行く傾向が継続しているため、変わらないと判断した。	
		自動車販売店	以前からの受注済みの商品は、届き始めて動きはあるが、全ての品目で価格が上がっており、買控えが発生している感じがあるため、変わらないと判断した。	
		小売業	客の入り方や客単価、売上げなどは特に変わっていないため、変わらないと判断した。	
		レジャー施設	当公園の来園者・施設利用者がほぼ横ばい状態であるため、変わらないと判断した。	
		理・美容店	忙しきの割には賃金の上昇はあまり見受けられない。更に物価の高騰に加え、電気代の値上げが追い討ちをかけている。ただ、今のところ売上げ的にはあまり影響は出ていないので、変わらないと判断した。	
		商店街代表者	商業、サービス業（飲食業等）における来店客増加等の声が多くなったが、原材料高騰による経費増加により、利益率は横ばいが予想されるため、変わらないと判断した。	
		設計事務所	客である工場の設備投資の予算に顕著な動きが見られないため、変わらないと判断した。	

変わらない	企業	農業関係者	引き続き、世界情勢や為替相場の変動により、生産資材価格が不安定(6月より出荷用段ボール等は値上げ、肥料は値下げ)。野菜や果実価格は、2~3か月の昨年比を上回って推移するものの、高騰する資材費をまかなえるだけの販売価格には至っていないため、変わらないと判断した。
		製造業(窯業・土石製品)	モノや人の動きは回復しているように感じるが、電気やガス、ガソリン等の高騰と、それに伴う原材料や梱包資材等の高騰があり利幅は見込めない状況のため、変わらないと判断した。
		製造業(化学工業)	主要取引先の海外メーカーの需要に回復の兆しがなく、在庫調整の局面が続いているため、変わらないと判断した。
		建設業	特に変化を感じないため、変わらないと判断した。
雇用	学校就業関係者	本年度も企業からの求人推移は昨年度と変わらないため、変わらないと判断した。	
やや悪くなっている	家計	商店街代表者	商品の値上がりや電気代の高騰により、気分的に買控えているため、やや悪くなっていると判断した。
		農産物直売所	食料品の値上げが多品目あり、不要な商品については購入しない傾向にあるため、やや悪くなっていると判断した。
		タクシー運転手	タクシー配車依頼の電話が減っていて、駅構内の乗車の数も減っているため、やや悪くなっていると判断した。
		ゴルフ場	3か月前より客数が減少しているため、やや悪くなっていると判断した。しかし料金の上昇が影響している可能性がある。
企業	製造業(食料品)	食料品など値上げが続いているため、やや悪くなっていると判断した。	
	製造業(電気機械器具)	昨年、原材料、仕入部品のリードタイムの不透明感から厚めの手配となり受注増となっていたが、ここに来てその反動で、大きく受注減しており、やや悪くなっていると判断した。	
	製造業(印刷・同関連業)	デジタル化の影響なのか、アナログでの仕事が少なくなっているため、やや悪くなっていると判断した。	
	金融業	各産業において、原材料高騰に歯止めがかかっていない。また、中でも電気代高騰が顕著であり、固定費増加が地域の中小企業にとって資金繰り悪化に影響し、やや悪くなっていると判断した。	
雇用	人材派遣業	例年の傾向より仕事の依頼が減っている感じがする。また、夏期季節繁忙も例年割れの見通しの企業が多い印象のため、やや悪くなっていると判断した。	
悪い	家計	製茶販売	3か月前より、皆、金を使わなくなった。色々な値上げのせいもあって、我慢できるものは我慢するようなので、悪くなっていると判断した。
		観光型ホテル	コロナ禍で猶予されていたものの支払いが一気に進み、それに伴い契約解除といわれている。支払いに遅れる日々のため、悪くなっていると判断した。年金が入ると動き出す客も今年に入ってその動きが鈍くなり、以前のような動きはならない。収入はほぼ変わらないのに、それを上回る支払がレジャーの予算を圧迫しているのではないだろうか。

Ⅲ 景気の判断コメント — 2 景気の先行き判断コメント

(1) 県北地域 【先行き】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	コンビニエンスストア	新型コロナウイルスの規制緩和により県外からの移動が増えたため、良くなっていると判断する。
		ゴルフ場	今だに慎重に行動している人たちも、周りの様子に影響を受けて行動範囲が広がっていくと思うため、良くなっていると判断する。
	企業	製造業（化学工業）	受注の増加が見込まれるため、良くなっていると判断する。
やや良くなっている	家計	スーパー	昨日の「父の日」の状況からも判断すると、酒・御馳走など動いているので、今後も景気は少し良くなっていると思う。多少買い控えはあると思うが、必要な商品は買うと思うので、今後も客単価の増で売上げは伸びると思っている。
		スーパー	新型コロナウイルスが第5類感染症に移行したことによる規制緩和の流れから、8月の帰省需要は高まるので9月も多少の景気回復はしていると予測するため、やや良くなっていると判断する。
		コンビニエンスストア	人流回復により、少しずつ経済が上向きになってきているため、今の環境よりも景気はやや良くなっていくと感じている。
		小売業（弁当・惣菜店）	行事やイベントが出てきたので少しずつではあるがコロナ禍前に戻ってきたと感じられるため、やや良くなっていると判断する。しかしながら、業種によってはまだまだという感じではある。
		小売業（水産物）	インバウンド効果や観光客の増加を期待し、また新型コロナウイルスの各種対策の終了により、やや良くなっていると判断する。
		小売業（時計）	株高や米国の様子から、少しではあるが良くなっていると判断する。
		日本料理店	中高年のペアの客が増えてきている。6月～12月に季節料理のフェアやスタンプラリーを実施予定であり、売上高が望まれるため、やや良くなっていると判断する。
		観光型ホテル	まだ分からないが、宿泊補助事業も終了となるだろう。その影響が必ずあるはずだ。現在は、6月末まで延長となっているが、5月のGW前に補助金予算に達し、GW後は予約の電話対応はするが、補助金予算がないと伝えると予約に繋がらないのが現状だ。補助事業終了後、必ず影響はあるが、今後回復していると思うので、やや良くなっていると判断する。
		レジャー施設	客足の戻りや消費傾向の回復が見られるため、経済循環を鑑みると、このまま消費者の動向が上向きであれば、企業等も徐々に景気が良くなるを感じる。また、直近だと春ごろより各イベント等の開催も見受けられることから、企業及び消費者の動きも活発になっていくと思うので、やや良くなっていると判断する。
		ゴルフ場	旅行者が増えたため、3か月先はやや良くなっていると判断する。
		設計事務所	いい情報はないが、希望的。周辺で新しいショッピングゾーンが出来て、その周辺は人の出が増えているため、やや良くなっていると判断する。
企業	製造業（金属製品）	大手が下半期は多少動くのではないかと予想するので、やや良くなっていると判断する。	
	製造業（精密機械器具）	仕事面でも、新型コロナウイルスが落ち着き動けるようになり、取引先会社との行き来もできるようになってきたため、やや良くなっていると判断する。	
	金融業	あらゆる物価の高騰や電気料金上昇等が消費回復の停滞要因となっているものの、社会生活やイベントを通じての人流や控えていた設備投資等が一定程度上向いているものと思われるため、やや良くなっていると判断する。	
雇用	求人開拓員	引き続き来所者増が見込めるため、やや良くなっていると判断する。	
変わらない	家計	衣料品販売店	当地では上向く様子がないため、変わらないと判断する。
		小売業（酒類）	売上げ実績が少しずつ良くなってきたが、物価高騰により経済的に厳しくなってくる感じがするため、3か月先は変わらないと判断する。
		レストラン	競合店の影響はしばらく続くと思われるため、現状と変わらないと判断する。
		スナック	3か月後も変わらないと判断する。コロナ禍に慣れてしまい、以前のように遊ぶ習慣が減ったように感じる。
		観光型ホテル	現在の景気が回復基調で良い状況であり、当面はこのままの状況が続くと考えられるため、変わらないと判断する。
		旅行会社	客から声がかかるようになってきている現在の状況が続くと思うため、変わらないと判断する。
		タクシー会社	かなり多くの商品が値上げしているため、現在の売上げの伸びが鈍化すると予想されるので、変わらないと判断した。
		タクシー運転手	市内の大手企業がまだ本調子とは言えず、テレワークも板についた感があり人の動きも見込めないと思われるため、変わらないと判断する。
		ドライブイン	生活費で電気代や燃料費の割合が高くなるので、猛暑だと出歩かないのではないかと予想されるため、変わらないと判断する。
		ゴルフ場	受注状況が平年並みのため、変わらないと判断する。
		写真店	新型コロナウイルス感染症が5類感染症になってから、少しずつ消費活動も戻ってきている印象を受けている。一方で夏に向けて値上げ傾向に歯止めはかかっていないところが不安材料のため、変わらないと判断する。

変わらない	企業	製造業（電気機械器具）	長期工程表上からの判断だが、現在と大きな変化はないため、変わらないと判断する。
		製造業（電気機械器具）	液晶・半導体製造装置関連において注残が多い状況が当面続く見込みのため、変わらないと判断する。
		製造業（電気機械器具）	主力製品が多少上向きな生産計画となっているが、その他の製品で生産数減少する製品があり、全体的に当月と同じように推移するため、変わらないと判断する。
		製造業（精密機械器具）	今後もあまり変わらないという顧客からの情報により、変わらないと判断する。
		建設業	先行きについても明るい話は出てこないため、変わらないと判断する。
		建設業	今年度についてはコロナ禍の制限もなくなり、物価の上昇と社会情勢が変化しているため、状況を探りながらの営業となっているため、劇的な変化は見込んでいないため、変わらないと判断する。
		非製造業（その他）	こなせるリソースが大幅に増加する見込みがないため、変わらないと判断する。
雇用	求人広告	変わらないと判断する。転職需要が高まっているようなので物価高騰が落ち着けば広告出稿も増えてくるように思う。	
やや悪くなっている	家計	商店街代表者	物価高騰による消費の冷え込みにより、やや悪くなっていると判断する。
		小売業（食料品）	相変わらず光熱費、資材等の高騰が止まらない。ウクライナのこともあり、良くなる理由が見当たらないため、やや悪くなっていると判断する。
		自動車販売店	6月以降、生活に関わる物の値上げがあり、買控えが増えると思われるので、やや悪くなっていると判断する。
		美容室	物価高はさらに続き経済も悪化すると予想されるため、やや悪くなっていると判断する。
	企業	林業関係者	回復の兆しが見えない。今はひたすらに我慢の時期。これ以上続くと林業業界は深刻な状況になるため、やや悪くなっていると判断する。
		水産業関係者	今後も値上げ傾向は続く空気感なので、現状自粛傾向かと思うので、やや悪くなっていると判断する。
		製造業（その他）	3か月先も仕事量は変わらないと見ている。しかし、製造原価も一段落したとは到底思えず、更なる値上げがあると見る。利益への圧迫度が増すのは確実。これに個人消費が低下すれば更に悪化するため、やや悪くなっていると判断する。
		不動産業	物価高の影響もあり、固定費の家賃を抑えようという傾向になっている。引っ越し代の捻出も難しくなっているように感じる。転勤等の事情のある引っ越し以外の移動は少なくなっていくと思われるので、やや悪くなっていると判断する。
	雇用	公共職業安定所	有効求人倍率が下がってきているため、やや悪くなっていると判断した。
	雇用	学校就業関係者	取引先や来訪者の会話などから、やや悪くなっていると判断する。



## (2) 県央地域 【先行き】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	日本料理店	インバウンド含め、旅行などの行動制限がなく移動ができるようになってきているため、更に増えると思うので、良くなっていると判断する。
		スーパー銭湯	リベンジ消費か？県外からの客も増えている。夏休みも控えているので、先のような客も増えると思予想している。また、コロナ禍で競合店の減少も影響していると思うので、良くなっていると判断する。
	企業	製造業（金属製品）	客からの直近の発注量の回復及び今後の増産要請により、良くなっていると判断する。
やや良くなっている	家計	商店街代表者	物価高の影響も感じますが、それ以上に日常生活がコロナ禍前の状態に戻ってきているのを実感できるのが期待できるため、やや良くなっていると判断する。
		商店街代表者	問合せ等も人通りと共に増えてきているので、期待をもって、やや良くなっていると判断する。
		小売業	月を追うごとに自粛ムードが更に緩和され、多方面での消費の活発化が想定されるため、やや良くなっていると判断する。
		コンビニエンスストア	新型コロナウイルス感染症が第5類感染症へ移行して、更に人の流動は激しくなると思うので、やや良くなっていると判断する。
		小売業	今後も今まで以上に人の動きが出てきて、小売店での消費にも結びついてくると思われるため、やや良くなっていると判断する。
		楽器販売	ここ数年のコロナ禍の期間は、夏も祭りがなく、遠出もしない日々だったが、今年の夏はやっとそこから抜け出して、イベント等が復活する気配である。既にイベント等が生まれ、弊社でも動きが始まっているため、やや良くなっていると判断する。
		自動車販売店	半導体不足が解消されつつあるため、やや良くなっていると判断する。
		割烹料理店	やっとコロナ禍前の売上げの6割ほどに回復してきたので、このままの調子で3か月後には、コロナ禍前の売上げに近づいてほしいと願っているため、やや良くなっていると判断する。しかし、物価の値上げが酷いので売上げは厳しそうだと思う。
		割烹料理店	夜に酒を飲む客が増えてきているので、夏の夜の売上げに期待し、やや良くなっていると判断する。
		観光型ホテル	7月下旬から8月の予約数が例年より早く順調に伸びているため、やや良くなっていると判断する。
		旅行代理店	コロナ禍より客の戻りが良くなり、しばらくはこの状況が続くと思われるため、やや良くなっていると判断する。
		バス運転手	新型コロナウイルス感染症に対する警戒感は、ほぼなくなったと思う。物価やサービス価格が上昇している面もあるが、この3年間、我慢を強いられた反動として、消費活動が更に活発になってくるのではないかなと思うため、やや良くなっていると判断する。
		観光名所	来場者の増加に伴い客単価も増加すると思うため、やや良くなっていると判断する。
企業	製造業（輸送用機械器具）	3か月先の需要要求が微増しており、原材料の一部では需給タイトな状況も現れてきているため、やや良くなっていると判断する。	
変わらない	家計	スーパー	直近と状況は変わらないと推察している。客数は前年並みで推移し、現在の状況と同じく単価上昇分で点数減を補って、供給も前年並みもしくは微増していくのではないかと考えている。6月末で直営のペーカリーコーナーでの火・水曜日に実施していたパンの98円均一セールが原料高騰により終了するため、集客日である火・水曜日への影響がどこまであるのかが読みづらい状況である。
		スーパー	商品の価格上昇が家計に影響しているため良くなっていくとは思えないため、変わらないと判断する。ガソリンもこのところ値上がり傾向というニュースを聞いた。
		コンビニエンスストア	大きな市場変化はなく、良い意味で客数が多い現状が続くと考えているため、変わらないと判断する。
		農産物直売所	3年ぶりのイベントで、メロン祭、収穫祭を開催した。来場者数はまずまずだが、買上げ点数が伸びないため、変わらないと判断する。
		都市型ホテル	現在、動きはかなり活発な状況であるが、秋のシーズン前は大きくは伸びないと思うので、変わらないと判断する。
		タクシー運転手	一度、夜の繁華街にこない習慣になると、なかなか一気に客の人数が増える事は考えにくい。3か月先も現状維持が精一杯のように感じるため、変わらないと判断する。
		レジャー施設	コロナ禍の影響はほとんどなく、以前に戻った雰囲気ではあるが、原材料費が高騰しており3か月先も下がる傾向が見込めず、収支の状況は変わらないと判断する。
		ボウリング場	前年比を超えたからといってそこまで世の中が回復傾向にはならないと思うので、変わらないと判断する。
		理・美容店	リピーターがほとんどで、宣伝、ちらしなどは一切やっていないので、1年を通してさほど変化がないように思うため、変わらないと判断する。
		写真店	新規の仕事が入る予定はないので、現状維持で変わらないと判断する。
		設計事務所	インフレが続く建築需要が大きく伸びるとは思えない。また現場は、恒常的に人材不足が続いているため、変わらないと判断する。
住宅販売会社	前述でもあり補助金申請が落ちつき始めるため、受注は落ち着くと思われる。3か月あたりでは変わらず推移すると思われるため、変わらないと判断する。		

変わらない	企業	農業関係者	3か月前と比較して、変わらないと判断する。資材等物価の変動が落ち着けば、回復していくと思う。
		製造業(食料品)	夏休みも人流の回復が見込まれるが、一方で新型コロナウイルスの影響も懸念されるため、変わらないと判断する。
		製造業(一般機械器具)	物価高や資源高に加えて海外経済の減速等、悪い要素ばかり耳に入り、良いニュースは聞かないため、変わらないと判断する。
		建設業	当分様子見の気配のため、変わらないと判断する。
		運輸業	顧客製品の出荷台数も変わらない状況であると現時点で予想している。
		金融業	新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行の効果が表れ始めるものと思慮され、観光業・飲食業・小売業などは緩やかな業績回復が期待できる。しかしながら、輸送費・人件費・材料費高騰は依然として高止まりの状況が継続するものと推測できる事から販売価格は上昇するものと思慮され、販売商品において優劣が生じ企業の2極化が加速するものと思慮されるため、変わらないと判断する。
		不動産業	企業が給与増などで個人所得に還元した効果が表れない限り、変わらないと思われる。
		情報通信業(情報サービス業)	このまま良くなり続けるとは思われない。しかし、悪くもならず当面は変わらないのではないかと。
雇用	公共職業安定所	現在はやや良くなっている状況だが、この1年間の新規求人数の動きをみると、前年同月比でマイナスとなる月が4か月あり、増加傾向に陰りが見られ、また、事業主都合離職者も令和5年4、5月の2か月とも前年同月比で増加している等、マイナス要素が一部表れつつあるため、変わらないと判断する。	
	学校就業関係者	世界情勢が好転せず、悪化した状態が長期化している事により、継続的に影響を受ける業種・業界の増加が想定されるため、変わらないと判断する。	
	求人開拓員	仕事柄、求人情報をよく見るが若干増えているようではあるが、目立って増えている感じがしないため、変わらないと判断する。	
やや悪くなっている	家計	酒・各種商品小売業	観光バスも増えてきてコロナ禍前に徐々に戻ってくるような期待があるが、色々な物価の上昇で飲食に関しては財布の紐が固いため、やや悪くなっていると判断する。
		道の駅	やはり各値上げ等が収まるまでは買控えなどが起き、必要以外での支出はしないので、やや悪くなっていると判断する。
		ゴルフ場	物価高騰により、レジャー費の支出は渋くなるものと考えているため、やや悪くなっていると判断する。
	企業	製造業(印刷・同関連業)	人の動きが出てきているのは感じられるが、なかなか実績に結び付かないため、やや悪くなっていると判断した。
		製造業(窯業・土石製品)	コロナ禍が明けて一時的に受注が増えたが、電気代をはじめ様々な商品の価格が上がり、生活必需品以外は買控えが起きていると思うため、やや悪くなっていると判断する。
		建設業	受注量が減少傾向になっているため、やや悪くなっていると判断する。
		運輸業(道路貨物運送業)	物価上昇の影響で貨物の動きは更に鈍くなると思われる。また、車輛価格も上がっており、代替えが進まないため、やや悪くなっていると判断する。
	雇用	求人広告	賃金高騰が足かせになり事業展開がうまくいかない事が多いと思うため、やや悪くなっていると判断する。

## (3) 鹿行地域 【先行き】

回答	分野	業種・職種	コメント
やや良くなっている	家計	スーパー	商品の値上げが、今後3か月の間にあると予想される。商品の値上げが起こると、客数と客単価が伸びるので、売上高が増えると思われるため、やや良くなっていると判断する。
		農産物直売所	特産物の知名度が上がってきているため、やや良くなっていると判断する。
		小売業（菓子類）	コロナの感染者が減少しているように思うので人の動きが活発化してくると思う。それによって消費が伸びるだろうし観光地も賑わうと思うため、やや良くなっていると判断する。
		洋食食堂	客数の増加が続いている。土日は、開店前から行列ができているため、やや良くなっていると判断する。
		日本料理店	まだ新型コロナウイルスの関係で自粛している企業があるので、解除されれば予約も増えると思うため、やや良くなっていると判断する。
		観光型ホテル	宿泊予約数が少しであるが増えているため、やや良くなっていると判断する。
		運転代行	3か月先、多少人の動きも増えるのではないかと思う。景気も人の動きによって少しずつ変わるので、やや良くなっていると判断した。
		旅行代理店	物価高騰ではあるが個人の旅行需要が見込まれるため、やや良くなっていると判断する。
		道の駅	県外ナンバーの車や観光バスで来場する客が増えている。各地でイベントも開催されてきているので、その時に道の駅に立ち寄る客が増えているため、やや良くなっていると判断する。
	クリーニング店	仕事の量も売上げも上がってくるため、やや良くなっていると判断する。	
	企業	農業関係者	ウィズコロナの時代に向けて、引き続き、消費者の購買意欲も高い状況が続く中、農産物の販売高についても今後も順調に推移するものと思われるため、やや良くなっていると判断する。
		保険業	給料が少し上がっているため、やや良くなっていると判断する。
		サービス業	国際情勢（ウクライナ等）と新型コロナウイルス再流行等の不安要素はあるものの、新型コロナウイルスの沈静化に伴い、新しい業務領域（カーボンニュートラル対応）が複数の業界で動き出しており、当面、この流れは継続すると推定するため、やや良くなっていると判断する。
	雇用	公共職業安定所	物価の上昇を商品価格に反映しやすい大企業において、求人申込の状況がやや良くなってきており、徐々に良くなっていく見込みがあるため、やや良くなっていると判断する。
学校就業関係者		求人企業数に関しては、5月末で当所にて30社頂いている。昨年は5月末で20社であったので、1.5倍となっており、経済活動の正常化、回復が続いていると思われること、今後、賃金の上昇と物価の上昇が連動していくものと思われることから、やや良くなっていると判断する。	
変わらない	家計	商店街代表者	エネルギー価格などの固定費や仕入れ価格などが急激に上昇しており、利益を確保することが難しい状況となっているため、現状と変わらないと判断する。仕入れ価格・エネルギー価格の急激すぎる高騰が、価格転嫁を難しくしている環境と思われる。
		スーパー	行楽需要は回復したものの、相次ぐ値上げによる節約傾向は依然としてあるため、変わらないと判断する。
		家電販売店	季節品の売上げ以外での好要因がないため、変わらないと判断する。
		農産物直売所	悪いまま、現状と変わらない状況と予想する。コロナが少し落ち着いてきて外国のお客が増えていると聞けるが、当店に影響はなく、今後景気が良くなる心配がない。
		小売業（食品）	業種により違いがあるようだ。新型コロナウイルスの影響は緩和されたが、まだ動きは元に戻らないため、変わらないと判断する。
		割烹料理店	予約の人数は増えてきたが、客の動きは鈍いため、変わらないと判断する。
		タクシー運転手	当分は変わらないと思うが、悪くなるかもしれない。コロナ禍も減少してきているようだが、また拡大するように思う。戦争の問題、各生活費の値上げ、生活の不安定が続いて、景気の回復はない。
		ゴルフ場	現在の社会情勢はしばらく変化はないものとし、当面の変化は感じられないと判断する。
		ゴルフ場	物価の上昇傾向は継続しているので、現状以上に景気が良くなるようには感じられないため、変わらないと判断する。
		レジャー施設	自然災害やエネルギー価格上昇、物価高の影響により消費が冷え込むと思われる。また、6月3日に発生した大雨被害が大きく影響すると思われるため、変わらないと判断する。
		理・美容店	メニューの値上げを検討しているところであるため、変わらないと判断する。
住宅販売会社	現状と変わらないと判断する。コロナ禍からの解放感があり、旅行など外へ出かける人が目につく。		

変わらない	企業	製造業（一般機械器具）	変化がありそうにないため、変わらないと判断する。
		製造業（食料品）	物価の値上がり幅より給料が上がらない限り、良くはないと思うので、変わらないと判断する。
		製造業（ゴム製品）	客先からの3カ月予想オーダーから、変わらないと判断する。
		製造業（鉄鋼業）	大きく変化する材料は思い当たらないため、変わらないと判断する。
		建設業	円安と台湾情勢により、変わらないと判断する。
	金融業	各種コスト増の影響を受ける中、各社販売単価の引上げには至っておらず、改善には時間を要することが予想されるため、変わらないと判断する。	
雇用	求人開拓員	鹿行地区は景気を上向きにするような産業が少なく、物価高、人件費などを考慮すると変わらないと判断する。	
やや悪くなっている	家計	コンビニエンスストア	商品の値上がりが続く中で、買控えする風潮は続くと考えられるため、やや悪くなっていると判断する。
		衣料品販売店	光熱費、食品等の生活必需品の物価が上がっているが、給料は上がっていない様子のため、やや悪くなっていると判断する。
		小売業（薬品店）	新型コロナウイルス感染症が5類感染症になっても、医療機関及び医療機関訪問はマスクが義務化されており、5類になった実感はない。コロナ禍の3年間で医療機関離れや、薬の長期投与の影響が大きく緩やかに患者が減っているため、やや悪くなっていると判断する。
		小売業	現在、買物に来ている客（個人客・中小法人の経営者）と会話をすると、先行きが不安定との会話が多いため、景気はやや悪くなっていると判断する。
		和食レストラン	原材料の高騰等が止まらない気配のため、やや悪くなっていると判断する。
		住宅販売会社	昨年はリフォームの問合せが多かったが、今年度は国からの施策で断熱性能を兼ねた補助金があり、申込が殺到しているようだ。予算がこの夏頃でなくなるとの声があり、客の動きが止まってるように見えるため、やや悪くなっていると判断する。
	企業	製造業（その他）	原料高はまだ続く。為替も輸入にとって良くないため、やや悪くなっていると判断する。
		製造業（金属製品）	4月頃からメーカーは、直系子会社に内部移管し、外への発注を絞っているため、やや悪くなっていると判断する。円安により海外からの注文が多いため、国内販売を縮小している。
		運輸業（道路貨物運送業）	9月には燃料高騰により国からの補助金がなくなるため、やや悪くなっていると判断する。
		不動産業	建築材料が今までも高止まりだったが、ここに来て生コンクリートが㎡17,000円前後が20,000円になった。当社も現在12月完成予定の物件を建設しているが、1年前に比べて12~16%くらい金額が違うため、やや悪くなっていると判断する。
悪	家計	小売業（書店）	今月はPayPayのイベントを開催していたので、それを埋めるのが難しいと思うので、悪くなっていると判断する。

## (4) 県南地域 【先行き】

回答	分野	業種・職種	コメント
良い	家計	日本料理店	毎年この時期は客の動きが良くなる。客単価、来客数も増加傾向なので、良くなっていると判断する。
		食堂	各地区でイベント（お祭り等）が復活してきたため、良くなっていると判断する。
		タクシー会社	新型コロナウイルス感染症も第5類感染症になって、マスクも自己判断になったため、良くなっていると判断する。
やや良くなっている	家計	家電販売店	気温が高くなれば、エアコンや冷蔵庫など比較的単価の高い商品が売れていくことが予想される。瞬間的な売上げになる要素もあるが、そこが起爆剤となれば良いと思うため、やや良くなっていると判断する。
		スーパー	今後値上げが継続されても食料品の消費量自体は大きく変動しないと判断する。よって、小売業に限定してだが、事業高は伸長すると思われるため、やや良くなっていると判断する。
		衣料品販売店	外国からの旅行者が多く、それにつられて国内経済も上向きになればよいという希望により、やや良くなっていると判断する。
		小売業（米穀）	マスクの着用が個人の判断になり開放的になって、これから観光地を中心に益々人が動くと思うため、やや良くなっていると判断する。ただ、売り手と買い手の価格の離れが大きく利益率が低く、大手の企業しか対応出来ない。
		洋食レストラン	物価の高騰などもあるが、コロナ禍から解放された気持ちのゆるみから、これからはもっと外出、外食などが増えると思うので、やや良くなっていると判断する。
		都市型ホテル	3か月先は繁忙期であるため、やや良くなっていると判断する。
		都市型ホテル	秋になると紅葉やイベントもあるため、インバウンドや国内団体も動くと思われる（現在、問合せ多数あり）。よって、景気はやや良くなっていると思う。
	企業	製造業（飲料）	10月の酒税税率改正に伴い、商品の価格の変動があることから、一部改正前の需要により、売上げが良くなると思うので、やや良くなっていると判断する。
		金融業	物価上昇への対抗策や企業努力が各企業に見られ、取引先の事業者の活動は少しずつ活発化しているように感じられるため、やや良くなっていると判断する。
	雇用	学校就業関係者	求人件数総数は前年よりやや増加しており、3か月先の雇用情勢はやや良くなっていると予想する。
		求人開拓員	今後3ヶ月に関しては、求人登録数が見通しとして前年を大きく上回ることが想定されるため、やや良くなっていると判断する。求人開拓で企業を訪問しているが、製造業・医療・福祉が特に求人難であると思われる。
	変わらない	家計	スーパー
スーパー			物価が上昇し続ける中、給与が変わらない限り買控えが発生しそうである。また、新型コロナウイルスの再拡大も心配なため、変わらないと判断する。
小売業			物価の上昇や天候など不確定要素が多いが、大きな要因がないことから3か月後も傾向は変わらないと思われるため、変わらないと判断する。8月といえばセール真っ最中であるが、年々客の買い方が変わってきている事が懸念材料といえる。いくら安くても必要ないものは買わないし、必要なものは定価でも購入する客が増えてきている事がどこまでセールに影響するか不確定要素である。
小売業（生花店）			3か月先は現在と比較して変わらないと判断する。業務量が増えて従業員を募集しても集まらない。人件費とマンパワーに限界がある。
タクシー運転手			人の動きが大体安定してきた感じがするので、変わらないと判断する。
タクシー運転手			おそらく横ばいの状態が続くと判断している。
サービスエリア			新型コロナウイルスの感染予防に対する自粛の動きが緩んでいくことで、観光需要、インバウンドの高まりが期待される。一方食材や水光熱費の高騰による、店舗の値上げの動きも止まる様子がない。現状は客数の減を単価の増で補っている面もあるため、全体としては景気に大きな動きはないと思われるので、変わらないと判断する。
ゴルフ場			現在より良くなるという兆しが見当たらない。自然に関する事は理由にならないが、3か月先も現在の状況が続くと思われるが状況によっては少し落ちるかもしれない。
テーマパーク職員			今後大きな物価の変動は見受けられないため、変わらないと判断する。
ボウリング場			コロナ禍が落ち着いてきて客の動きが活発になってはきたが、まだまだ景気が安定しているという感じはしないので、今以上に景気が良くなるとは思えない。景気は横ばいで、変わらないと判断する。
レジャー施設			入場者・売上げ等変化がないため、変わらないと判断した。
理・美容店			3か月先は変わらないと判断する。値上げに対して既存客が再来店するか、心配で眠れない。
住宅販売会社			客の動きは出てきたが、エネルギー、物価高の影響で購買意欲は慎重になると考えたため、変わらないと判断する。

変わらない	企業	農業関係者	景気回復には、まだまだ時間がかかるため、変わらないと判断する。
		製造業（食料品）	株価が上昇し景気が良いように見える。その反面、ガソリンや原材料が値上がりしているため、相対的に変わらないと思うので、変わらないと判断する。
		製造業（印刷・同関連業）	極端に良い材料、悪い材料ともに見当たらないため、変わらないと判断する。
		製造業（非鉄金属）	物価高騰により、製造コストの上昇が止まらない状況。価格転嫁には限界があり、収益力は今後も低下し、景気回復への足かせとなるため、変わらないと判断する。
		製造業（その他）	原材料の高騰と人件費を上げたため、利益率が悪くなると思うので、変わらないと判断する。
		運輸業（倉庫業）	6月になってから、最近の貨物の入在庫量から考えると良くなって欲しいが、変わらないと思われる。
		不動産業	業種的に、税制優遇など外的要因がない限り大きな変化は起こらないと思われる。
		不動産業	数か月単位での動きは変わらない。但し需要に対する供給（売地・賃貸住宅等）の不足により、一部売上げについて、今後減少する可能性も考えられる。
雇用	求人広告	新型コロナウイルスの影響が無くなったが、求人に関しては取引先からの需要を感じず、また3か月後に好転する事由が見当たらないため、変わらないと判断する。	
やや悪くなっている	家計	コンビニエンスストア	更に物価が上昇し、買控えがエスカレートすると思われるため、やや悪くなっていると判断する。
		農産物直売所	物価が上がり、客数が減少している現在の状況が良くなっているとは思えないため、やや悪くなっていると判断する。
		レストラン	5月8日以降の消費行動は変化があった。旅行支援終了については影響はないものの日常が戻ることで個人の外出需要は落ち着き、海外旅行へも目が向くことで近場の外出機会に変化が出そうな気配があるため、やや悪くなっていると判断する。
		都市型ホテル	現在の状態がとても良いので、これより良くなるとは思えない。どちらかと言えば、今よりは悪くなって当然だと思うので、やや悪くなっていると判断する。稼働や売上げ額を現状のまま維持できるほど、客商売は甘くない。長年の経験から良い時があれば悪い時もあるので企業努力を怠らず頑張るしかない。
		設計事務所	資材の値上がりで工事費がアップしているため、買控え現象が起きているため、やや悪くなっていると判断する。
企業	農業関係者	各種企業は人件費・資材・燃油等の物価高騰を理由に、今後も商品に対し価格転嫁を行うと思われ、個人の消費は抑えられてしまうのではないかとと思われるので、やや悪くなっていると判断する。	
	製造業（食料品）	小売店からの注文は、現在の緩やかな上向きを推移すると思う。業務用の夏場の注文は鈍化する傾向にある。小売＜業務用の売上比率から売上げが下がると判断する。燃料費は高止まり、または高くなると思うので、やや悪くなると判断する。	
	製造業（窯業・土石製品）	円安、燃料高、生活品の価格上昇により、やや悪くなっていると判断する。	
	製造業（窯業・土石製品）	単価を上げられないところがあり、周りもそれに引きずられる場合があるため、やや悪くなっていると判断する。客も同様である。	
	建設業	新築物件の減少による受注減のため、やや悪くなっていると判断する。	
	建設業	今までにトラブル等の電話や工事依頼の話はあったが数は減ってきている。客からの発注件数は減少し、入札件数も減少しているため、やや悪くなっていると判断する。	
悪	家計	理・美容店	ロシアで戦争しているため、悪くなっていると判断する。
	雇用	民間職業紹介業	顧客の業績も低迷しているため、悪くなっていると判断する。

## (5) 県西地域 【先行き】

回答	分野	業種・職種	コメント
良い	家計	タクシー運転手	コロナ禍前の80%位良くなったような気がするため、良くなっていると判断する。
		設計事務所	阻害要因が見当たらないため、良くなっていると判断する。
	企業	製造業（金属製品）	今までとは違い、取引先からの案件が2か月先までは見通せているため、良くなっていると判断する。
やや良くなっている	家計	家電販売店	少しずつではあるが、冷蔵庫、エアコンなどの単価が上がってきている。リフォームに対する関心も増えている。必要に応じた事に対しては消費行動が活発化しつつあるため、やや良くなっていると判断する。
		日本料理店	新型コロナウイルスが終息し、環境が良くなっていると思うので、やや良くなっていると判断する。
		旅行代理店	コロナ禍が一般的に終息しつつあるという認識の方が増えて、旅行需要が回復してきたため、夏にはコロナ禍前の水準にもどると期待しているため、やや良くなっていると判断する。
		道の駅	これから梅雨も明け、学校等の夏季休業、お盆等があるので外出する機会が増え、景気は上がっていく方向になると思うので、やや良くなっていると判断する。
		クリーニング店	人の流れ、3月、5月の外的要因変化による動きは活発になっていると思われるため、やや良くなっていると判断する。
	企業	不動産業	賃貸から購入を考えている人が増えているため、やや良くなっていると判断する。
		サービス業（コンサルタント業）	飲食店に活気が出てきたような気がするため、やや良くなっていると判断する。
	雇用	求人広告	物価高などの要因があるが、4月上旬から徐々に右肩上がりで好調だと思う。コロナ禍で落ち込んでいる低いところからのスタートである分、ゆるやかにもうしばらくは好調なのではないかと考えているため、やや良くなっていると判断する。
		求人開拓員	高校・企業の就職情報交換会での高卒求人が活況な事や、合同企業説明会での高卒・学卒参加者のみならず、一般求人が増加していること等から、企業の長期業績改善が見込まれると思われるため、やや良くなっていると判断する。
	変わらない	家計	商店街代表者
スーパー			様々な値上げラッシュが続き、益々節約志向が高まると思うので、変わらないと判断する。
衣料品販売店			一般客の来店はほぼ見込めないため、変わらないと判断する。
自動車販売店			原材料の高騰が、3か月先には収まるとは考えられない。当然、価格が下がることもなく、消費を抑える傾向は変わらないと思うので、変わらないと判断する。
農産物直売所			特に大きな変化は見られないと思う。
小売業（酒類）			値上げの波が止まらないので、どうしても嗜好品とされるアルコール関係が一番最初に節約される。人の流れが生まれたことで、密かに感染者も増えているような気配を感じ、そういった情報に敏感な人達は、様々な活動を控えると思われる。3か月先は良くなるという希望も持ちたいところだが、なかなか上向きに推移するのは難しいかもしれないと思うので、変わらないと判断する。
小売業			贅沢品を売っているわけではないので、景気に左右されず、変わらないと判断する。
レストラン			物価が上がっていて、値上げは避けられないため、変わらないと判断する。
食堂			色々な物の価格が上がりし、様子見をしている人が多いように思えるので、今以上に景気が良くなるようには思えないので、変わらないと判断する。
和食レストラン			まだまだ官庁関係、上場会社は動かないが、少しずつ上場会社も動きが出てきた。しかし、まだまだ分らないため、変わらないと判断する。
都市型ホテル			新型コロナウイルスの影響が減少傾向にあるものの、物価高騰、電気代、ガス代高騰の影響が著しいため、変わらないと判断する。
タクシー運転手			景気が良くなっていく判断材料がない。中小企業でも良くなっている企業もあるが、まだまだ厳しいと言っている企業が多いため、変わらないと判断する。
道の駅			観光客は一度動き始めたが、所得の上昇が見込めそうもないため、変わらないと判断する。
レジャー施設			現状、極力出費を抑えている客が多く、今後の社会情勢動向を踏まえて景気が上向くとは考えにくいので、変わらないと判断する。
レジャー施設			世相によって、若干良くなったり、悪くなったりしながら、現状通りに落ち着くような予測のため、変わらないと判断する。
商店街代表者	商業、サービス業以外にも、製造業、建設業等も含め受注増加等の声が多くなったが、エネルギー及び原材料高騰による経費増加により、利益率は横ばいが予想されるため、変わらないと判断する。		
設計事務所	客である工場設備投資の予算に顕著な動きが見られないため、変わらないと判断した。		

変わらない	企業	畜産業関係者	特段大きく動く要因はないので、変わらないと判断する。
		農業関係者	新型コロナウイルスの影響が薄まる中、これからの電気代等の値上げを考えると、先行きが以前として不透明であるため、変わらないと判断する。
		製造業（電気機械器具）	すぐに需要が回復するとは思えないため、変わらないと判断する。
		製造業（電気機械器具）	中・長期の予測は難しいが、この状況は続くと思われるため、変わらないと判断する。
		製造業（化学工業）	メインとなる半導体・電子部品関係の需要回復が遅れており、回復は24年はずれ込むと予想されるため、変わらないと判断する。
		建設業	特に変化を感じないため、変わらないと判断する。
		金融業	電気代等を含めて、原材料価格が依然の水準に戻るとは考えにくく、変わらないと判断する。
雇用	人材派遣業	飲料、ギフト関連の物量減に対して、自動車の生産が少しずつ戻ってきたため、相対的に変わらないと判断する。	
	学校就業関係者	特段変わった様子が見られないため、変わらないと判断する。	
やや悪くなっている	家計	商店街代表者	夏は服があまり売れないため、やや悪くなっていると判断する（過去比較）。
		コンビニエンスストア	賃上げしている企業あまり見当たらない中、物価上昇は続いているので、客の懐事情は厳しくなっていくのではないかと感じている。一方、今後の最低賃金の見直しで、中小企業の経営者は厳しい状況に追い込まれ、企業の存続としてのかじ取りはますます難しくなることが予見される。そのため、客と店舗経営者双方の視点からも景気は悪くなっていくのではないかと感じているため、やや悪くなっていると判断する。
		ゴルフ場	次回の来場予約を取る客が少なくなっていると体感している。また予約数も少なく感じるため、やや悪くなっていると判断する。
		理・美容店	電気料金の政府支援金がなくなるので、生活環境は悪化してくると思うので、やや悪くなっていると判断する。
	企業	製造業（窯業・土石製品）	まだまだ値上げの要求等が続いており、配送業者からの値上げもあり良くなる見通しがなく、10月には最低賃金の引上げがあり厳しい状況が続くのではと思うので、やや悪くなっていると判断する。
		製造業（窯業・土石製品）	輸入品販売部門で、円安に因る仕入れ価格上昇を販売価格に転嫁しづらい状況のため、やや悪くなっていると判断する。
		製造業（印刷・同関連業）	資材の値上がりに、価格が追いついていないため、やや悪くなっていると判断する。
悪い	家計	製茶販売	景気が変わらない限り、無理だろう。金を持つてる人は変わらず持つてるが、金のない人は更になくなって感じがするので、悪くなっていると判断する。
		観光型ホテル	この頃、新型コロナウイルスの第9波の騒ぎがある。学級閉鎖もある。また今までの状態に戻るのではないかと不安なので、悪くなっていると判断する。夢中で乗り越えてきたこの4年間だが、また繰り返されるのかと思うと、存続することに不安を感じる。予約の客は4か月先まで入っているが、存続できる自信はない。



### Ⅲ 景気の判断コメント — 3 その他の意見

#### (1) 県北地域

分野	業種・職種	コメント
家計	商店街代表者	買える方と買えない方がはっきりしている。なるべく余分なものは買わないような消費行動が見られる。
	スーパー	物価上昇、電気代他経費の上昇で、中小企業の置かれる状況はより厳しくなる一方である。電気代高騰により、実質すべての新電力が撤退か新規顧客の停止を余儀なくされたと思うが、今月から新規受付を開始した新電力もちらほらと出てきた。電力自由化により、商売として自由に新規参入が出来てきたわけだが、利益が出ない情勢なら撤退をするのであれば、契約する側としては慎重にならなければならないのも実情である。
	コンビニエンスストア	物価上昇により、プラスオンで購入されるデザートなどの購入を控える客が多くなったと感じる。
	小売業（弁当・惣菜店）	人の流れが出てきたものの、電気代の高騰のように各種材料費の値上げや人件費の急騰など、不安な環境は変わりはないといったところか。また、コロナ過で過ごした消費習慣や生活習慣がどう戻るのか、また戻らないのか注視するところではある。
	衣料品販売店	年金の減少と物価高で、衣料品まで購入する意欲が湧かないのだと思う。
	小売業（時計）	SNS等ネットでの案内で呼び込んでいる店が、少しずつ増加してきている。
	レストラン	コロナ禍が明けて人が動き出しているのも、バーベキュー関連やイベントの流れが増えてきている。
	スナック	家族でのレジャー等は子供のためもあるのか、施設などは混雑していてコロナ禍前に戻ったように感じる。
	日本料理店	近所のスーパーやショッピングセンターでも客が増えている。
	観光型ホテル	新型コロナウイルスが落ち着いて、動きが活発になってきているように思う。
	観光型ホテル	新型コロナウイルスが終息傾向にある今、各種団体等の宴会を含む会食が多くなり、賑わいをみせている。新型コロナウイルスの影響で、出来なかった事（総会、送別会、歓迎会、同窓会）が、終息傾向で開催されている現状は良い兆しと感じている。
	観光型ホテル	旅行を計画しようとした際に、航空便の予約状況をネットで参照したが、満席の便が多かった。旅行への機運が高まっていると感じた。
	旅行会社	特に特徴的な動きはない。
	レジャー施設	小売店等の商材では、物価上昇に伴い金額の上昇も見受けられるが、内容量や原材料の上昇はなく、質が落ちているように感じる。一方で進んでいる電子マネーの導入により個人消費の金額の増加が感じられる。また、出足という点ではファミリー層では回復傾向にあるが、高齢層の出足は未だに鈍っていると感じる。
	ゴルフ場	若い人が増えた気がする。
	ゴルフ場	少し開放的にはなってきたが、まだ新型コロナウイルスに対する用心と国からの旅行支援の様なものがなくなったので、貯蓄に回す方向に動いていると思う。
	ゴルフ場	様々な集まり（各種団体の総会やイベントなど）がこれまでオンライン開催や書面決議とされていたものが、ほとんどが対面での開催になっている。
写真店	本当に必要なものにしかお金をかけない傾向がさらに強くなってきた。	
美容室	物の値段は高くなるが、売上はあまり変わらない状況である。	
設計事務所	新しいショッピングゾーンができたので、人の出が増加している。そのために、周辺には新しい店舗ができるだろうと考えている。	
企業	林業関係者	価格下落、製品の引き合いも薄く、コロナ禍の反動を想定していたが実際になってみると、全てにおいて価格上昇の中、素材、製品の下落では、小規模企業は今後厳しくなると感じている。しかしながら止めるわけにはいかないのも、協力体制のもと努力していきたい。
	製造業（電気機械器具）	大きな取引先の1社が2月に営業を終了した。また、他の取引先でも、変圧器の製造を2025年3月で終了とのことなので、今から対応を考えていきたい。弊社の依存度は25%で決して低くはない。
	製造業（電気機械器具）	以前は納期が見通せない物品があったが、最近は落ち着いてきている。
	製造業（電気機械器具）	生産効率を上げるべく設備を検討しているが、残念なことに電子部品の入手困難により納期が1年かかってしまう。
	製造業（精密機械器具）	今年の春まで、部材が予定どおり入り難い状況が続いていたが、現在はようやく解消されてきている。
	製造業（精密機械器具）	新型コロナウイルスが落ち着き、旅行等のレジャーができるようになってきたため、金が動くようになり景気は良くなってきたと思う。

企業	製造業（その他）	新型コロナウイルスによる行動制限が解除され、確実に人の動きが良くなっている。飲食店も満席になる、観光地も人で溢れる、各地で様々な催しが開催されるなど、この3年間の鬱憤を晴らしているようだ。これが続いている間に物価の安定、為替価格の正常化、ウクライナ戦争の鎮静が実現してほしい。
	建設業	旅行業の方からの話では、すこぶる良い状況だと聞いたので、良くなっている業界もあるので波及効果を期待したい。
	金融業	地域商工業者の多くが、高騰する物価・増加する固定費を価格に転嫁できず収益を圧迫している状況を懸念している。
	非製造業（その他）	コロナ禍後としての動きだろうか。マスクを外す機会が増え、店等での人出が増えた。
雇用	求人広告	倒産・廃業をちらほら感じる。
	公共職業安定所	製造業の求人に陰りが見え、対前年比-26.8。物価高により利益が取れなくなってきたのか。
	学校就業関係者	休憩時間などの会話から、電気料金・ガソリン価格など今後の景気に不安を感じる。

## (2) 県央地域

分野	業種・職種	コメント
家計	商店街代表者	一段落したかに思えた値上げがまだ続いている。当初は新型コロナウイルスやウクライナ侵攻等による影響が大きいとの説明だったが、ここに来てまだ値上げが続いているのは納得できないこともあり、便乗値上げではないかと思うこともある。
	商店街代表者	人手不足の影響で事業継続を断念したり、工事現場の工期が伸びたりと深刻な状況になりつつある。
	小売業	地域イベント等が再開することで、街の活性化が感じられる。
	スーパー	ポイント10倍などのプロモーション実施時の、特に基礎調味料（しょうゆ・油など）の日持ちする食品の買い溜めのような傾向がみられる。ポイント施策や5%引きなどのプロモーション実施時に客数・供給が多少偏りが出ている印象がある。直営ベーカリー部門の火曜・水曜日の98円均一が、原料価格高騰により6月末で終了になる。
	農産物直売所	メロンギフト品の買上げ年齢は、70～80代が70%を占めると思われる。家族客は安い価格帯のギフト、またはバラ売りメロンの買上げがほとんど。高価格のプレミアムに集中する客や大量買いする客は、全体の2～3%と思われる。
	日本料理店	制限が緩和されたのか、茨城県より遠くに行く客が増えたと思う。
	割烹料理店	最近少しずつだがマスクの人が少なくなり、コロナ禍前のような生活に戻ってきているように感じる。景気は気分なので、また元のように出歩いたりして経済が回ってきてほしい。しかし物価高はきつい。
	観光型ホテル	最近では、週末でも車の量が少ない。
	バス運転手	豪華客船の寄港をはじめ、インバウンド旅行者の来県が増えてきた。コロナ禍からの復活の起爆剤となることを期待したい。
	道の駅	一昨年、昨年と4月～5月新型コロナウイルスが流行していた時に、売上げ・客数とも伸びていた。これは、人混みを避けるため、自然がいっぱいある当店周辺に客が来たのと、バス移動でなく感染リスクが少ないマイカーでの来客が当店に来たためと思われる。今年はバス移動や人混みがある施設に客が向いたため、当駅への来客が減少した。
	写真店	少しずつコロナ禍前の活動に戻ってきているが、様々な所で値上がりの告知があるので心配だ。
	設計事務所	モノの値段が継続して上がり続けていて、福祉施設においては箱が大きいがために光熱費の増大が施設運営の重荷になっていると聞いた。
	住宅販売会社	不動産業も一般建築業も、ウッドショックも終わり木材の高騰は落ち着いてきたが原料高騰はまだ続いているため、景気としては変わらない状況が続くと思われる。購買意欲よりは、単価が上がったため、月々の返済がひっ迫する不安は拭えないと思われる。
企業	製造業(食料品)	新型コロナウイルスの影響と考えられる飲食店の閉店は、まだまだ続いているように感じる。
	製造業(金属製品)	仕事量的には回復基調になっているが、エネルギー費や副資材(材料、加工油、工具等)価格の高騰が続いており、一部の客には価格転嫁を認めてもらっているがあくまで半年分など期間限定であること、副資材も材料費以外は認めてもらえない状況であり、なかなか利益面に繋がっていかない、というジレンマがある。
	製造業(一般機械器具)	実体経済に合わない株価、ウクライナ、物価高、注意して見るしかない。
	製造業(輸送用機械器具)	生産計画は高い要求があるが、直近で減産へ変更するケースが多い。これは昨年度から継続されてる内容であり、変化点ではないが、半導体を中心にタイトな状況が影響していると考えている。
	製造業(精密機械器具)	工具屋が工具の注文が減っていると言っていた。
	建設業	コロナ禍が明け、業種によっては繁忙を迎えているのではないかと。私の周りにはその気配はない。
	運輸業(道路貨物運送業)	物流費高騰を理由に商品値上げが進んでいたが、ようやく運賃の値上げについても荷主からある程度の理解を得られてきている。労働時間短縮を迫られる昨今は、車輛の代替えを決断しても納期は1年後であり、計画的に進めることが事業継続の鍵になると思われる。
	金融業	人材の不足に懸念がある、または既に人材が不足している事業所が多く存在しており、資力のある企業はセルフレッジ導入など経営環境を変化させることができるが、代替の効かない事業所は、営業時間縮小など利益確保に向け企業努力はしているものの、ヒト・モノ・カネ・情報の経営資源が分配できる状況にはないと感じる。
	不動産業	個人消費でも、外食・旅行など、これまで行動制限により抑制されてきた分野は、行動制限解除により個人消費の盛り返しが見られる。
	情報通信業(情報サービス業)	採用について各社旺盛になっており、学生の奪い合いである。

雇用	求人広告	夜、酒を飲みに行く人たちは増えた。
	公共職業安定所	事業所訪問等の際に景況感を尋ねると、概ねコロナ禍前に戻りつつあるとの回答が多い。運送業、建設業、サービス業等では人手不足が顕著であり、特に新卒者の採用が困難といった意見を多く聞く。
	学校就業関係者	身近な日用品の値上げが続いているため、消費を抑える傾向が強くなっている。職場では、光熱量の高騰により、使用電力量の削減など継続的な対応が求められている。新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行により、人の流れが活発化したことによる経済効果も感じられるが、景気回復を実感するまでには至っていない。

(3) 鹿行地域

分野	業種・職種	コメント
家計	商店街代表者	度重なる電気代の値上げに対して、節電に対する意識が向上しているように感じられる。
	衣料品販売店	バブルを経験した世代（消費に積極的な世代）の人が、洋服や身の回り品ではなく、旅行や食事にお金を使っている印象。それ以下の年齢の人たちは、普段の生活でいっぱいというものが現状。消費税を下げるくらいしないと、結婚しないし少子化も進むだろう。
	家電販売店	大型商品、小型商品、消耗品共に値上げが続いている。
	農産物直売所	余計なものは買わないという感覚が定着し、嗜好品の動きが鈍くなっている。
	小売業（薬品店）	飲食店や居酒屋等は、コロナ禍前の景気が戻ってきていると感じる。この3年間予約なしで行けた店も予約しないと入れない店が増えてきた。
	小売業（食品）	同業者がこの4～5年、魚の不漁でやめる所が出てきた。
	小売業（書店）	PayPayのイベントは売上げの上昇に大きく寄与したキャンペーンだったので、ぜひ茨城県pay等を企画してほしい。
	和食レストラン	サービス業である以上、現状を鑑み、いかに客に満足いただけるかの問題解決が急務である。
	洋食食堂	新型コロナウイルスも一段落と多くの人が考えていると思う。人と集まる機会を増やそうとするケースが増えつつある。飲食のケースも次第に多くなってゆくのではないだろうか。
	日本料理店	飲食店はまだまだ厳しいようで、店を閉めてる所を見かける。人材不足的な問題もあると思う。
	運転代行	物価高に伴い生活が大きく影響を受けている。新型コロナウイルスもだいぶ落ち着いてきたが、コロナ禍前に戻ることはまず無理だと思う。多少なりの景気の回復を望んでいる。
	タクシー運転手	当分の間は景気回復は見込めない。戦争を早急に終息させて、昔の状態にしなければお先真っ暗だ。人間同士がなぜ殺し合いをするのか。大きな国ほど小さな国を助けてやらなくては。そうすれば、自然と景気は良くなるはずだ。
	道の駅	コロナ禍の時は、旅行に行っている事が知られないように土産物コーナーで購入を差し控えていた客が、今はカゴいっぱい土産を購入している。
	企業	ゴルフ場
レジャー施設		大雨の影響により大きな被害が発生している。また、台風や梅雨入り、地震、盗難等もあり何においても油断できない状態である。災害対策や防犯などの消費が増加するだろう。
クリーニング店		人が増えたように見える。
農業関係者		新型コロナウイルス感染症が2類感染症から5類へ変わった事により、消費者の方も外出する機会が増え、直売所で販売する農産物についても売上げが伸びている。
製造業（その他）		物価高が更に生活を苦しくしていくと予想される。株高などはこの辺りの人の生活には関係なさそうである。
建設業	国内外の観光が活発化してきた。	
運輸業（道路貨物運送業）	運送業界の倒産話やM&Aはよく聞く。来年から変わる法律で2024年問題もあり、今後不安もある。	
金融業	新型コロナウイルス収束もあり飲食業や小売業を筆頭に来店客数増加がみられるほか、各種イベントも再開されており人流の回復がみられる。	

## (4) 県南地域

分野	業種・職種	コメント
家計	スーパー	6月から宅配の送料が値上がり、お中元への影響が心配である。以前は、卵の特売日は売上が1番低い曜日だったが、今は卵目当てで客が多く来店するようになった。
	スーパー	一般加工品の値上げが相次いでいる関係でレギュラー品と嗜好品の価格差が小さくなってきているため、価値訴求品の支持が上がってきているという実感がある。おそらく当面この傾向は継続すると予想している。
	小売業	最近の傾向として2つ。1つは、物販の動きが鈍くなってきている事。背景は旅行やキャンプなどコト消費にお金がかかるため、物の消費は極力抑えたいという客が増えてきている傾向がある。2つめは、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことにより、客（特に若者）の行動範囲が広がり、都心まで出かけて買い物をする客が増えてきているため、若者ターゲットのテナントが苦戦している。
	小売業（生花店）	同業他社の知人で倒産2件と廃業1件が発生した。（廃業理由は、高齢と後継者不在）
	衣料品販売店	国内の旅行に行く人が多くなったみたいだ。それに伴って衣料なども買う人が増えれば良いと思う。
	小売業（米穀）	某新聞販売店で聞いた話だが、ここ数年で新聞購読者が激減しているようだ。電子版を読んでいるようだ。よって折込み広告も減ったようだ。電車の中吊り広告もかなり減っているようだ。仕事の在り方がこれから変わって行くだろうと思う。
	洋食レストラン	個人的な意見だが、以前よりも県外に出ることが多くなった。それに伴い、店にも県外の客が増えたように思える。
	食堂	道路（バイパス）が開通し、フリーのお客様が少なくなってきている。
	レストラン	GW以降は客単価も一段落。リベンジ消費的な高級飲食は落ち着きつつある。
	都市型ホテル	当社はホテルであるが、海外のインバウンドが増加傾向である。特に台湾が最多であり、9割は台湾からの来日である。4月484人、5月282人の宿泊利用。台湾の次は香港、インドネシアと続く。今後も増加傾向にある。
	都市型ホテル	新型コロナウイルス感染症も第5類感染症に移行し、宴会の利用が増えている。大人数でも料理内容も立食や盛り込み料理でも気にせず、また、感染したなど特に問題も起こらず実施しており、企業や団体の宴会は我慢していたのだなど実感している。
	都市型ホテル	相変わらずガソリンが高い。何もかも物価が値上げされているので、庶民の買控えが目立つような気がする。物価高だからといって、便乗値上げもあるような気がする。
	タクシー会社	人気の美容室などの予約が1か月先まで埋まっていて予約が取れない。みんな普通に動き出している。
	サービスエリア	飲食店が避けられる傾向が見られ、時給を上げて人員募集をしてもなかなか集まらない。
設計事務所	1人ときどき2人の家シングルマイホームをテーマに、独身者向けの住宅を企画したところ好評である。	
住宅販売会社	旅行、外食に出る人が増えたように感じられる。	
企業	農業関係者	大企業（優良企業）においては、物価の高騰に併せ賃金アップも実施されていると思われるが、中小の一般企業（利益確保が難しい企業）においてそれほど体力もないと思われ、格差社会が更に広がってしまうのではないかと感じている。
	製造業（飲料）	飲食店の客が、外食もより利用されている姿が多く見られるようになった。
	製造業（印刷・同関連業）	特に大きな変化は感じられない。このGWから様々なイベントや行事が実施され、地域の賑わいも戻りつつあるように感じた。今後も夏に向けて、更に活気を取り戻していかねばならないと思う。
	製造業（窯業・土石製品）	ガソリンの値段を気にしながら給油するようになった。
	製造業（窯業・土石製品）	観光地の人出が戻っている。また飲食店も混み始めている。
	運輸業（倉庫業）	5月よりマスク着用が個人の判断となったが、従業員や会社への乗客については、依然としてマスク着用が多い。都内ではマスクしている人はほとんどいないと聞いているが、茨城への波及は遅れていると感じる。景気の上昇についても、茨城で実感できるのは遅れ気味と感じる。県南はさほどではないが、北に行くほど傾向が顕著になっていると感じる。
	金融業	運送事業者は、燃料代高騰や人件費上昇気運の中で、ドライバー確保が難しい局面だが、無理して遠距離運送受注をとらず、近隣エリアに的を絞って受注することで、燃料コスト削減、ドライバーの労働環境が守られ、無理な賃金上昇なしでも定着するので経営が安定しているような企業努力が見られた。
	不動産業	物件上昇局面を不動産購入に際し、考慮する方が増えた気がする。収入に対し、購入金額に少しゆとりをもつ傾向が見られる。
不動産業	住宅メーカーでは、着工棟数が減ってきているようである。	
雇用	民間職業紹介業	半導体や製造工場の生産量が減少しており、不景気の入り口かもしれない。
	求人広告	欠員が出て以前ほど追加募集をしなくなったように感じる。
	学校就業関係者	備品や消耗品を購入する際、価格が上がり、納期も長くなっており、購入を断念せざるを得ないケースが発生している。
	求人開拓員	企業の中で、外国人技能労働者も雇用が厳しくなっているとの声が聞かれる。

## (5) 県西地域

分野	業種・職種	コメント
家計	商店街代表者	買う買わないは別にして、服を見に来る客は増えていると思う。
	スーパー	毎月、商品値上げによる価格変更が多くて仕事量が増えている。
	コンビニエンスストア	物価上昇により値上げされる商品が多いので、NB商品より比較的安価なPB商品の方が売れている印象である。
	家電販売店	新築や中古住宅への引越しをする人が増えている。
	小売業（酒類）	コロナ禍で預貯金があるせいか、多少割高感があっても「いいもの」を求める客が前より増えている気がする。量より質にこだわっている方が多い気がする。
	小売業	メーカーの新製品が少なくなっているの、メーカーの景気は良くないのかなと思う。
	製茶販売	理髪店、クリーニング店など前よりも出入りする人が少なくなったように思う。これが我慢できる場所なんだろう。資材が値上げしてるのに、家庭内手工業な稼業は値上げをしないで客奉仕をしているが、それもいつまでもつか。値上げをしたら客離れされるのではないかと怖くて仕方ない。せめて卵とガソリンの値段だけでも元に戻ってほしい。
	日本料理店	光熱費の高騰、ウクライナ問題、人件費、原材料の高騰が心配である。
	食堂	買控えがあるように思える。
	和食レストラン	各団体とも総会が開かれ、アルコールなしのランチ会なども開催され始めた。
	旅行代理店	急激に回復した観光関連業種だが、コロナ禍で人員削減したため、人手不足で悩んでいる。
	観光型ホテル	客も慎重になっている。色々な物価が上がる中で仕方のないことだと思う。同じ人数の客が入っても、以前のような売上げにはならない。顧客単価が下がっている。またあのコロナ禍は繰り返されるのだろうか。閉館することも真剣に考えている。
	レジャー施設	景気に直結するかわからないが、自動車の交通量が多くなった。
	理・美容店	道の駅のオープンは、活気が出て良い事だと思う。
商店街代表者	市内イベント等の開催がされるようになった。	
クリーニング店	人の笑顔が見られて嬉しい。一人ひとりが積極的に動くことが肝要。	
企業	農業関係者	食品等の値上げが続き、消費者の買控えや購買意欲のさらなる低下が予想され、景気回復は厳しい環境下であると感じる。
	製造業（窯業・土石製品）	最低賃金の引上げは続いているが、中堅層以上の賃金引上げがほとんどなく、購買意欲に繋がらないように感じる。
	製造業（金属製品）	円安の影響で輸出用品が好調といえる。
	製造業（化学工業）	車載向け半導体の需要に関しては堅調に推移している。
	金融業	工業団地の造成が予定されており、アパートの建築需要が期待されている。
	不動産業	売買、賃貸とも事業用の動きが活発化している。
	サービス業（コンサルタント業）	飲食した後、代行運転を呼ぶのだが、コロナ禍前と比べて代行が来るまでに非常に時間がかかる。これは稼働している代行車が少なくなっているようで、不便でしょうがないので早く元に戻って欲しい。
雇用	求人広告	物価の値上がりが多い中で「値上がりしているから買わない」という選択もあるが、それより「仕方ない」と割り切る人も増えた気がする。
	人材派遣業	市内で大型倉庫の新設情報が数か所あり、向こう3か月以上先ではあるが、採用が活発になる見通し。
	学校就業関係者	食料品、生活必需品等の価格高騰により、生活にゆとりがない。